京城日報

二十六日夕刊

本紙定價 一部金二錢五厘 一ヶ月金六拾五錢 三ヶ月金壹圓九拾錢 六ヶ月金三圓七拾錢 郵券代用二割增
廣告料 五號活字一行金七拾錢 [illegible]
發行兼編輯人 奧田直毅
印刷人 谷口政太郎
發行所 京城太平通一丁目 合資會社 京城日報社
電話 [illegible]

◎總統府內の大會議

二十四日午後總統府內に大會議を開き國務卿以下各總長參政等出席即位延期善後策及び國の內外に對し如何に袁總統の體面を保つ可きかに就き協議せり此結果は不日命令となりて現はる可し(北京特電)

◎日置公使より更めて通告

日置公使は二十四日午後四時陸總長を訪ひ支那政府が即位延期の通告を發せる前石井外相より陸駐日公使に質問せる所を更めて通告せり其の大要に曰く支那政府は嚮に帝政實施するも擾亂の憂無しと聲明せるが雲南の今日は如何支那政府は此狀勢をも顧みず尚ほ帝政を斷行するの意なりや如何と右了りて雲南の現狀四川の戰局に付き談話せり(北京特電)

◎米國排日案提出延期

毎年の慣例なる排日議案は今議會は多分提出されざる可し下院移民會の意向は該法律制定が國際の關係に惡影響を及ぼすものなれば今度丈は之を延期せんとするものにして政府も之を希望し居れるが如し(紐育電報)

◎英國徵兵法案通過

英國徵兵法案は三十六票に對する四百八十三票の大多數を以て下院を通過せり(倫敦電報)

◎京城歲末金融

內地米穀は引續き高値を唱へ、且つ本年の新大豆は稀有の作柄にして既に滿州大豆に比し割安の爲め新穀米と相俟つて輸移出の盛況を極めたるのみならず牛皮、棉花等の移出も亦相當の好況を呈せり從て移入綿糸及び雜貨等の賣行を增したる等各方面に對する資金の需要を喚起したるの外納稅資金の決濟及び年末諸決濟資金等の需要もあり一般資金の移動は前月來依然として頻繁にしてために春來久しく閑散の情態を持續したる金融界は稍繁忙を呈するに至れり而して一般市況も亦年末に拘らず相當の好況を呈したるため歲末金融界は順調の裡に越年せり今京城九銀行の十二月末日帳尻を見るに之を前月に比し預金に於て六十萬六千餘圓貸出に於て五十五萬八千餘圓の各增加を示せり更に之を前年の同期に對比する時は預金に於て六十三萬餘圓貸出に於て二十八萬六千餘圓の何れも減退を示せり

◎間島舊曆歲末

間島方面の支那人は陽曆は共和に附隨せるものとや思ひけん帝政問題喧しき今年は年末歲首とも殆ど平日と異る所無かりき故に諸種の取引決算は來る舊曆年末に行はるゝ次第なるが農商を通じ金融の逼迫せること未曾有にして恐らく多數の破產者を出さんかと觀測せらる例示すれば目下土地を放賣又は擔保とせんとする者頗る多く爲めに地價の低落せること甚しく一昨年までは支那一晌地一百五十圓にも値せし良地、今は僅々三四十圓にても購入者無き狀況也(間島)

◎大典記念忠南蠶種庫

御大禮記念事業の一として公州山城公園の一部に起工したる忠淸南道恩賜產業傳習所の蠶種冷藏庫は御大典當日同所長神藏要藏氏初め職員生徒四十三名齋戒沐浴し滿腔の熱誠を罩めて起工の典を擧げ昨年十一月三日本工事に著手し

▲至難なる石窖の掘鑿を第一著とし其他に要したる人員は二千三百二十七人その日數五十六日經費總額四百十六圓七十一錢にして豫て總督府より來道の三田技手の指導を受け終に本年一月十三日を以て全部完成したるものなるが庫は總て石垣セメント塡め高さ十八尺奧行十五尺幅十二尺通路三十尺にして蠶種貯藏部分は間口六尺奧行七尺高さ六尺の堅牢なるものにして蠶種枚數約四萬枚を容るゝに足るべく而して之に要する水量約一萬六千貫を要すべしといふ殊に本工事を永遠に記念表顯すべく第一石門上の奉額に

▲小原道長官の揮毫になる『御大禮記念』と其門柱に澁谷第一部長の忠淸南道蠶種冷藏庫と刻みたるに本道に於ける本冷藏庫築工は蠶種改良及び蠶業發達の爲め甚大の好影響を受くると同時に逐年蠶種の改善桑苗の共同購入其他蠶種製造同業組合組織の成立等は將來忠南をして他に見る能はざる生繭地として目せらるゝに至るべし(公州)

◎高子爵陞敍

中樞院顧問子爵高永喜氏は廿五日午後十一時三十分薨去せり是より先き危篤の趣天聽に達するや左の如く陞敍の御沙汰ありたり

朝鮮總督府中樞院顧問 正四位勳一等子爵 高永喜
敍從三位

▲總督總監代理弔問 中樞院顧問子爵高永喜氏薨去に付總督府通譯官藤波義貫氏は寺內總督及び山縣政務總監代理として二十六日午後一時半京城通洞なる故子爵邸を訪ひ弔意を表せり

▲軍司令官代理弔問 高永喜子薨去に付き井口駐箚軍司令官は小泉通譯を代理として二十六日子爵邸へ弔問せしめたり

▲小松中樞院翰長弔問 中樞院書記官長小松綠氏は高子爵薨去に付藤波通譯官と同道故子爵邸を訪ひ弔意を致せり

▲葬送期と墓地 高子爵の葬送は來月一日午前十時三十分自邸出棺西大門外義州通獨立門前に於て永訣式を行ひ高陽に在る祖先の墓地に埋葬す可しと

◎軍司令官の招宴

井口駐箚軍司令官は二十五日夜千代本にて宴を張り立花警務總長、山形大佐、隈部大佐、原田朝鮮社長、島田京城瓦斯支配人及び京城に於ける新聞通信社長を招待し席定まるや井口司令官は一場の挨拶を爲し之に對する來賓の答辭ありて主客歡を盡して散會せり

▲官邸晚餐會 井口軍司令官は目下初年兵教育視察の爲入京中の步兵第三十一旅團長伊藤少將を主賓とし其他軍司令部の各部長及び岡本師團參謀長等を二十六日午後六時より三坂通り官邸に招待し晚餐會を催す

◎十八銀行重役選任

長崎十八銀行にては頭取松田庄三郎氏先般逝去せしにつき補缺選擧を行ひたるが其結果副頭取永見寬二氏頭取に取締役兼支配人松田英三氏副頭取に當選就任する事となれりと

◎廿七日の木曜會

總督府高等官有志を以て組織され居る木曜會は二十七日午後六時より京城ホテルに於て開會中央試驗場技師今津學士の左の講演ある可し

演題『最近の內地に於ける化學工業談』

◎各地初雪

其の後報告ありたる各地の初雪起日及び昨年との比較は左の如し

地名	起日	昨年との比較
慶州	五年一月五日	晚二十四日
咸昌	同 一月廿二日	晚二十三日
密陽	同 一月廿二日	晚六十三日

◎內地航路の風浪

二十三日以來寒風加はり關釜間海上風浪激しく爲めに連絡船も屢々遲著することあり然るに二十四日嚴原より入港すべき天草丸、長崎よりの城津丸、下關よりの大有、間宮の諸船は二十五日に至るも入港せざりき(釜山)

◎南大門外繁榮會

『芝居が寂しくては困る』

京城は昔城壁を以て圍まれた關係から自然今も殘つて居る城壁內が發展し充實し城壁外は甚しく取殘される傾がある、と云ふ感を最も痛切に感じて居るのは南大門外に居住する人々である。南大門は京城の玄關ではないか光熙門や北門とは事情が違ふ、その大玄關たる南大門外が不振では甚だ困る、何とかして大に繁榮策を講ぜねばならぬとは久しい以前から南大門外の人士の叫ぶ所であつた。處で南大門外の繁榮を計る爲に十五日會なるものが組織せられて有志相會し、懇親を結び意思を疏通して門外の發展を期成する事となり既に屢々會合が催された。その十五日會の發起で今年は大々的に行らうといふので南大門外の有志者が新年宴會を二十五日夜御成座に催した。

▲當日集まつたものは來賓を併せて門外の官民百數十名、宴會の前に會議の形式を執らうとあつて天日常次郎君を座長に推薦した上で大正五年の新年を迎へ南大門外有志の親睦を促す年に當り一致協力して吾が門外の繁榮に努めんことを期すといふ意味を決議し、今後一つの會を組織するために準備委員として即ち天日常次郎、河村千太郎、瀧原[illegible]、松原榮、近藤[illegible]、藤原久治の諸氏を擧げた。

▲それから來賓の祝詞祝戲、餘興として松原村の演戲等があつて宮部本町署長の發聲にて天皇陛下の萬歲を三唱の後宴會に入り酒間餘興に興を添へて賑々しく十時過ぎに散會した。

元山

▲舊曆歲末の金融 元山地方の鮮商人間に於ける舊曆歲末期の金融狀況を聞くに昨今に至り明太の漁獲豐況にして出廻り品次第に增加し來りたるも例年に比し價格の高位にある爲め一般の需要を喚起せず、綿糸布類も季節柄相當の賣れ行きあるべき筈なるも是れ亦荷動き捗々しからず、從て舊歲末に於ける金融狀態は豫期以上の活況を呈するに至らざる模樣にて至極平穩の裡に經過するものゝ如しと

▲牛價暴騰の氣勢 咸鏡南道に於ける畜牛の價格は昨年來異例の暴落を來したる處近時米穀の漸騰により農家の金融潤澤となりたると春耕準備の爲め他道よりの買出し商人入込みたるとにより反動的暴騰の氣勢を孕み牡牛は一頭に就き十圓方牝牛は一頭に就き六七圓方の騰貴を見るに至れり、隨つて一時非常の廉價に販賣され居りたる肉類も漸次騰貴を示しつゝあり(元山)

忠州

▲勅語奉戴式 忠淸北道郡守會議に參列せし徐郡守田中書記は公立龍山里普通學校に下賜さるべき教育勅語を奉戴して二十三日歸廳官民學校生徒等の奉迎あり郡廳にて森嚴なる勅語奉戴式を擧行せり

▲近衛演習兵歸營 江原道原州附近に於て近衛演習を擧行したる臨時派遣隊忠州守備大隊の忠州、尙州、平昌の各中隊は將校以下元氣旺盛にて豫定の戰闘演習を終へ二十二日歸營せり

大邱

▲邱銀安東支店新設 大邱銀行にては昨年來慶北安東に支店を新設せんとて調査中なりしが經濟的實力も相當に充實し愈々新設するの氣運に達し去る二十五日大邱銀行第五期總會に該議案を提出せしが中には尙早論者もありたれど採決の結果千五百株に對する六千株の多數にて新設する事に決定したれば認可の指令に接し次第是が新設するに至る可し因みに新設期は來る三四月頃ならんと

▲邱銀定期總會 大邱銀行にては二十三日阪本取締役宅に於て大正四年下半期株主總會を開きたるが出席者二十三名八千五百株利益配當、營業報告、收益決算等を承認して散會せり因みに下半期利益按排は左の如し

一金六千一百八十七圓九十一錢 前期繰越金
一金二千九百三十六圓二十一錢 當期純益金
計金九千一百二十四圓十二錢
內 金三百五十圓 法定積立金
金三百十圓 別途積立金
金四百圓 役員賞與金
金五千四十圓(年八分) 株主配當金
金三千二十四圓十二錢 後期繰越金

▲鮮南銀行總會 大邱鮮南銀行にては二十四日第七回定時株主總會開會し營業報告、利益配當、諸般の報告ありたり

▲共同便所新設 從來大邱府には共同便所の設置なき爲め頗る不便を感じ來たりしが今回大邱府に三箇所及び倭館安東各一箇所宛の設置を爲すこととなり大邱府に於ける場所は公園市場他一箇所にして大邱府一箇所百五十圓の補助其他未定經費は地方費の補助にして倭館安東は各五十圓宛の豫定なるが大邱府の共同便所は八角形煉瓦造屋根亞鉛葺一坪二合とし近日著手の運びに至るべし

▲星州消防組改善 慶北星州警察署管內星州消防組は從來鮮人消防手多數なるに比し內地人消防手は極めて少數なりしを以て過般來之が改善に關し調査を遂げ內地人は官公吏を除きたる外在留民は男子滿十八年以上四十年以下の者には全部消防手を命ずることとし從來の組頭以下九名を二十三名に增員し本月二十日夫々辭令を交付し又一面鮮人消防手中高齡者老齡者を淘汰し四十名中二十八名の入替を行ひ之れ亦同日辭令を交付したるが此外は內地人組頭一名小頭一名消防手二十一名鮮人組頭一名小頭一名消防手四十名に增員したり又一方警鐘臺の位置を變更し郵便局西方高地に移轉したり

▲東村學校組合會議 慶北達城郡東村學校組合會にては二十一日達城郡廳會議室に於て臨時組合會議を開き[illegible]校舍屋根改築の件を附議し校舍の使用期日を變更せし由

釜山

▲大典記念公園寄附 釜山にては御大典記念として龍頭山公園に一大修築を施すに付き商業會議所より金一萬圓寄附の件は總會にて決定し尙道廳の認可を經たれば二十六日正式に府廳に申込をなす現金は今回買收の土地代金を以て之に充つる由

▲釜山農事講習會 二月一日より約一週間の豫定を以て釜山府民團役場樓上に於て石井技師を講師として短期農事講習會を開催し引續て林業講習會もなす由

▲釜山棧橋會社 釜山棧橋株式會社にては二十六日釜山小倉庵に於て定時株主總會を開き四年度下半期營業、決算報告、利益金配當率(年六朱一株に付一圓宛)を附議したり

◎安東銀行總會

安東銀行定時株主總會は二十二日午後二時より安東公會堂に於て開催せられたり當日の出席數は委任狀共七千四百九十株に達し定刻渡邊專務取締役の大正四年下半期營業報告並に藤田監査役の監査報告ありて一同之を承認し次の利益配當案を附議し是亦原案通り可決し終つて臨時總會に移り監査役の任期滿了に付改選を行ひたる結果王筱東、藤田駒吉、藤田榮次郎、井佐太郎の四氏再選重任に決し次に皆銀行營業に伴ふ定款變更の件を可決して同四時頃解散せるが同行の當期純益金は一萬五千八百零七圓二十二錢にして株主配當金六千二百五十圓(年一割)なり(安東縣)

◎張平南參與官出張

平安南道張參與官は二十五日菱本勸農技手を隨へ共進會褒賞傳達式地主會及び模範農會同等に臨席の爲め一週間の豫定を以て成川江東各郡に出張せり

人事消息

▲村田庶務課長 平安南北道へ出張中の處廿四日歸任
▲伊藤旅團長 初年兵教育檢閱終了に付二十七日龍山歸館任の筈
▲吉富師團參謀 初年兵教育視察の爲め咸南方面へ出張中の處廿六日午後歸任
▲古城軍司令部副官 陸軍省に於ける師團副官會議に出席の爲め廿七日午前龍山發東上
▲中村辰五郎氏(實業家) 滯京中の處二十五日朝鮮南浦へ
▲森脇幾茂氏(北海道水產試驗場長) 二十五日朝安東へ
▲小松謙五郎氏(忠淸南道事務官) 二十五日[illegible]京歸任
▲瀨端芳太郎氏(拓殖主計中監) 二十五日夜釜山へ
▲大原庄太郎氏(釜山水產組合長) 二十五日釜山へ

◎望み無き安協

北京政府對雲南獨立軍當面の急事として帝政延期を宣言したる現政府が如何なる措置を取る可きかは尤も興味ある問題にて四國の情勢より推し當り袁總統が支那傳來の安協策を取る可きことは何人も意料中の事なるが確聞する處に據れば袁總統は某要人を雲南に密派し某外國人を介して安協運動を試みんとしつゝあり其の條件としては(一)雲南側は先年[illegible]倫獨立政府の例に倣ひ北京政府の要求を容れて其獨立を取消すこと(二)雲南側は北京政府の帝政施行を承認して以て正の民意機關を組織し責任內閣を行し地方自治を尊重することに同意する二つなる趣きなるが雲南側にては素より帝政を承認せしめんことは望み得べきに非ざれば斯る安協は到底成功の見込なかる可し(北京)

◎竄入俘虜と吉林

既電の如く目下交戰國の俘虜(重に獨逸兵)中逃走して吉林省に入り吉林、東寧、寧安、密山、依蘭、延吉等の六縣內に在る者二十七人に上り各地官憲に通報し官吏の多くは外事に通ぜざる爲め往々意外の問題を惹起することあるを以て取締上之れが統一を圖る爲め王吉林將軍は吉林城內に俘虜收容所を設くるに決定せるが名稱を外軍收容所と云ひ收容人員は五十人を標準とし監督長官は交涉署長に專任せしむる筈なりと(長春)

◎遼西問題と電請

遼西非南滿なる支那官憲の主張に對しては日支官憲間に於て討議中なるが之れに對し段奉天將軍は北京政府に對し遼西問題は國家の主權及び行政權利の得喪上重大の關係あれば之れを速決して地方官をして出る處を知らしめ度き旨を電請せり(奉天)

湖南行

奧田鯨洋

第一信

二十五日朝南行、四溫に入るべき筈なるに、早天寒威凜烈、唯見る稻田氷河の荒凉なる風光のみ、遮莫赭山淡霜を誇るは、老女の裝ども見るべし、車中戲敵なく、乘客亦少し、未だ蘇峰先生の兩京去留誌を讀む、其の半だも卒業せざるに、何處よりか一洋人と一朝鮮婦人と予の隣座に來り、饒舌竹林の雀の如し、盜視するに、女の左手腕頸部には、金色燦たる黃金の腕輪輝き、相貌打ち見たる處二十二三、顏面扁平、美人と云ふに非ざるも、又た常人の如からず、洋人男は容貌一見、失敬ながら、島田衆議院議長に彷彿たり、其の多辯饒舌、思はず苦笑を禁じ得ざりし、西井里に至れば、路傍に寒鳥群をなす宛然雀の如し、成歡驛に暫時停車、窓外松崎大尉の記念碑を眺めては、熱々故市原鮮銀總裁を思ひ、瞑目故人を偲ぶ事久し、何となれば故人は此の碑建立發起の主唱者なりしが爲なり、而も既になし矣、鳥致院より自動車を驅て直に公州に向ふべし、(日清役の古戰場を眺めつゝ)

第二信

午前十一時三十分、鳥致院著、天安を出るや、積雪山野に滿ち、白皚々、既に直に自動車に乘せんとすれば、既に滿員なりと、予は本社より前日鳥致院迄の自動車を約束し置きしに、今日に至りて拒絕さるべき理由なし、取扱人は曰く、其は公州より何等の通知なしと、然らば公州自動車取扱者の不調法か、其は吾人の關せざる所、兎に角京城より乘車を打電し置きしに之れを拒絕するとは聊か不埒と云はざるべからず、何はともあれ寒風吹き荒ぶ、鳥致院驛頭に立往生となりしは、吾ながら大に其不覺を苦笑するを禁ぜざる也、行程には日限あり時間あり、次便の自動車は午後六時ならざるべからず、然らば公州著は八時か、一日を空費するを惜み、人車を驅る(鳥致院より)

第三信

鳥致院にて、一時立往生、遂に人車を賃して、行く事里余、後方より爆音勇ましく、走せ來る自動車あり、不平は更に羨望となる、然るに同車は、不思議にも、予が車前に停車し運轉手君下車、車前に來つて、實は京城よりの電報に接し居しも、運轉手の鳥致院に通告を忘れて歸り來りしより、御乘車を拒絕せしなりと、漸く人車より自動車に移乘の光榮を得たり、運轉手君と車を並べし處、頗る奇觀を呈す、されど爆進と共に、寒風顏面を刺す、午後二時半公州に著す、直に道廳に到り、敬意を表し、僅に一時間にて、電光石火的の視察をなす(公州常盤旅館にて)

商業登記公告

合資會社町田商店有限責任社員宮田藤左衛門ハ大正五年壹月拾八日其ノ出資シタル商品價格金五千八百圓ノ內[illegible]篠崎半助ニ[illegible]仁川府本町[illegible]北深江直治郎ニ[illegible]京城府明治町貳丁目拾八番地町田棟吉ニ各讓渡シテ退社シ篠崎半助、平山松太郎、深江直治郎、町田棟吉ハ無限責任社員トシテ入社シタリ、主ノ各之ヲ讓受ケ町田棟吉ハ其ノ他ハ有期トシテ入社シ大正五年壹月拾八日合資會社町田商店支配人深江直治郎ヲ解任シタリ

朝鮮貿易株式會社取締役李載崑、金數鉉、取締役金鳳來、監查役崔鍚、趙秉澤ハ任期滿了ノ處大正五年壹月拾五日左記ノ者當選就任シタリ

[illegible]

京城地方法院

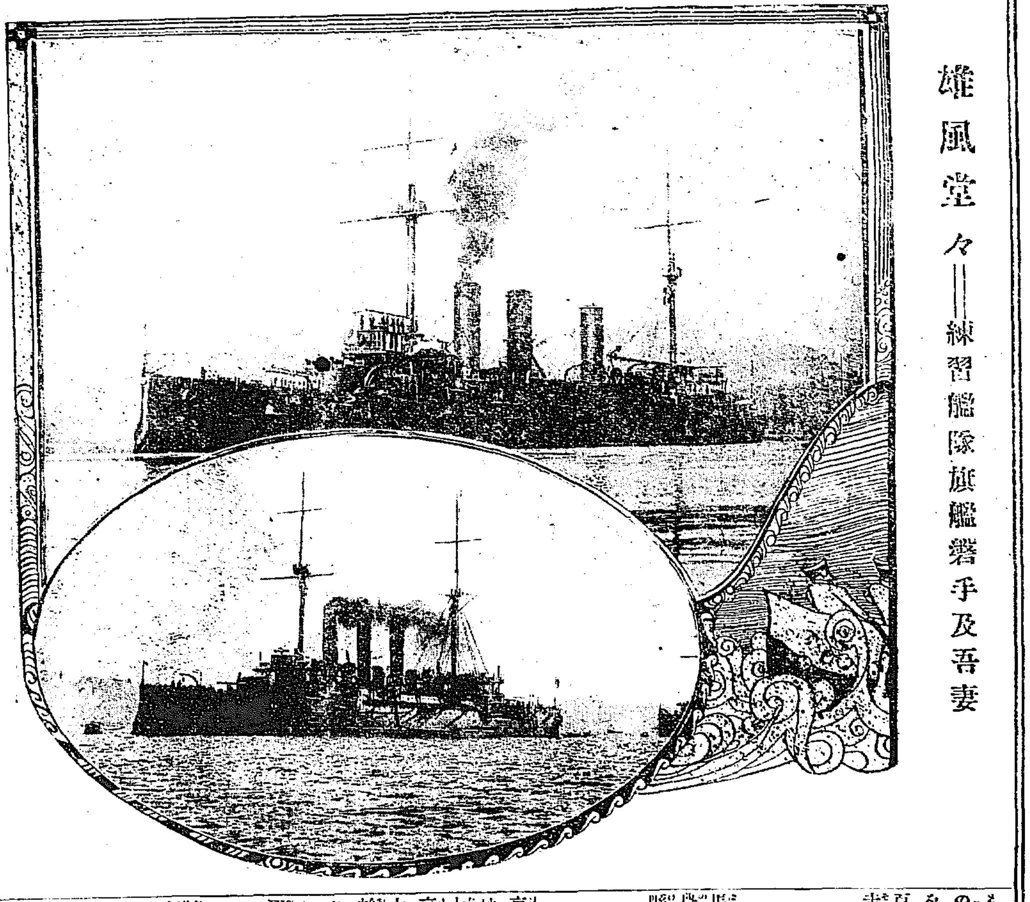
右大正五年壹月貳拾四日登記

少年 二月號 お待兼の 痛快なる大雄篇 冒險探偵奇譚 懸賞お伽文發表 扁は內 小い狐

少女 二月號 大々好評 賢い母樣 花自動車 長持の怪 純潔で清新な小說が外六篇 (拾話)初春の新日本 十六頁色刷

定價 各一冊十五錢 稅一錢五厘 一ヶ年分(稅共)一圓七十二錢 東京 時事新報社 發行

宇治 月桂園茶舖 本場宇治茶 地方通信販賣 京都 [illegible] 京城旭町一丁目(電話九九八番)



雄風堂々—練習艦隊旗艦磐手及吾妻

●春霞棚曳く頃よ
兩陛下御同列にて畝傍陵御參拜

皇宗神武天皇が大和橿原に奠都し天業の基を開かせ給ひしより爾來二千五百七十六年を閲し天皇は在位七十六年にして崩御あらせられしを以て來る四月三日の神武天皇祭は恰も二千五百年に相當し且は今上陛下御即位後の第一年とて其際 陛下には親しく畝傍御陵に御參拜の上特に相當の御祭儀を執行あらせらるべく尚皇后陛下にも御同列にて行幸相成るやに承はる之れにつき奈良縣にては兩陛下の御駐蹕を仰がんとして早くも行在所の選定に著手し居れる由なるが程近き京都には御所の現存せるあり殊に皇后陛下には御即位禮の大庭を此度初めて御覽あらせらるゝことなれば或は京都御駐蹕仰せ出さるゝやも知ざるを以て其場合には三月中差許されたる御所拜觀を一旦三月廿日限にて打切り內外の大清潔を施行したる上 陛下の行幸を仰ぎ奉り御祭式滯りなく御終了還幸あらせられし後更に一定の期間を定めて御所の拜觀を差許さるべきかと(京都特電)

●練習艦隊來る!!
磐手吾妻の雄姿=仁川港頭壯觀

海軍少尉候補生を乘せたる練習艦隊磐手及び吾妻の兩艦は二十六日午後一時縱艦相銜んで威風堂々仁川港に入港し月尾島沖に投錨せり投錨後一時間午後二時久水府尹、櫻井稅關長平田觀測所長市橋郵便局長松元署長本社仁川支局員等稅關ランチに搭乘して旗艦磐手を訪問して松村司令官に敬意を表せり因に本艦隊は來る三十一日迄碇泊し二月一日出港鎭海を經て舞鶴に向ふ豫定なり

●ルバール氏祖國へ

平壤居住佛國人ルバール氏は……

……居雜貨商中下政一(三三)は曾つて忠北……十二月十九日夕刻……ことを鍾路署の警官に探知され取調……りて家人が發見し拾ひ上げて見るに……南府生れ京城鍾路三丁目居雜貨商刀……れ兩名共取調べの上檢事局へ送らる

●滑稽泥棒追ひのフイルム
梅の家前の喜劇 逆戻して押入へ

二十五日午後十時半頃京城本町署の兒玉巡査部長が大和町三丁目梅の家前を巡廻中同家の裏手に當り大勢の騷ぎ聲聞ゆるより直ちに現場に赴きたるに附近の者等約二三十名泥棒々々と連呼して曲者を搜索する模樣なるが件の曲者は附近の者等に驅り立てられて梅の家前の二階建の屋根瓦の上に飛び上り居るを認めたるより取押へんと入方より追ひ立つる內賊は遂に姿を隱したるより一同は呆氣に取られ最早や何れにか逃亡したるものと諦らめて引揚げんとしたる際同部長は其際賊の侵入したりと云ふ家に就き隈なく搜索したるに果せる哉曲者は袋鼠の如くなりて逃路に窮したる結果舞ひ戾りて同家の押入の中に蟄伏中を難なく取押へ逮捕したる上本署に引致したるものなるが賊を最初發見したるは京城郵便局の配達夫にて同配達夫が郵便物配達の爲め梅の家裏の家に行き外より戶を叩きたる際無言の儘にて內より戶を閉ざし居る氣配あるより是れ必定泥棒ならんと推察して騷ぎ立てたるものにて件の賊は大膽にも同夜家人の外出不在中を見澄まし浸入して酒を飲み飯を食ひたる上衣類雜品約三百圓內外の價格のものを窃取して逃走せんとせし際發見せられたるものと知れ目下本署に引致して嚴重取調中なるが賊は年頃二十四五歲の內地人にて最近京城市內各所にて大泥棒を働きたるは全く此奴なること判明し引續き取調中

●農民一萬押し寄す
滿洲寬甸知縣の狼狽=馬將軍急行

馬車稅家畜稅增徵に反對せる寬甸縣農民約一萬餘一揆を起し大舉して知縣衙門に押寄せ暴動をなすとの急報に接し東邊鎭守使馬龍潭は巡防第七營の前哨を率ゐて廿六日午前六時鎭撫の爲め同地に急行せり(安東縣特電)

●活動寫眞館內で掏り取る

京畿道高陽郡巖浦生れの朴氏完(二八)は昨年十二月中恩赦減刑に浴して西大門監獄を出獄後一定の住所もなく京城及び龍山を徘徊し昨年十二月二十二日京城黃金町活動寫眞黃金館に於て見物中の某內地婦人の懷中し居れる三十餘圓入りの財布を掏り取りたるを手初めに一月十日には龍山漢江通りの空家に侵入して硝子障子及び硝子十六枚を窃取して之を古物商に代金四圓に賣却し一月十六日にも漢江通りの空家より又々障子及び硝子を窃取し之を京城古市町の空家に隱匿し翌日古市町の空家より硝子四十八枚を窃取して前日分と合せ之を吉野町の古物屋に賣却し得たる代金は全部京龍の鮮人妓樓にて遊興費に消費したる所を龍山分隊の手に取押へられ尙ほ餘罪ある見込にて嚴重取調中

●櫻井町の火事
家族危うく燒死

京城櫻井町一丁目六十七番地飲食店小坂常吉方より二十六日午前四時二十分頃發火したるより京城各常備消防隊及び消防組本町署員等直ちに驅付け防火に努めたるが何分同所は足場狹隘なる上に家並櫛比し居れるを以て一時は頗る憂慮さるゝ有樣なりしが各消防隊の目醒しき活動により火元小坂方及び隣接せる同番地なる名村方の二戶を全燒し次いで六十八番地なる食料雜貨商土谷方を始め鮫船方、加藤、三浦、加藤方の五戶を半燒して同五時鎭火したり燒失せる建物は朝鮮式溫突又は亞鉛葺き都合三棟なりき尤も矮小なる同棟の中に二三戶も雜居し居れることゝて燒失戶數の割合には損害額僅微なりと家屋のみにて約一千圓の損害見込なりと家財等の損害は目下取調中尚火元小坂が發見したる際には自宅は早や一面の火となり居り家族四名を火中より救ひ出したる際同人は兩手顏面等に火傷したるが生命には異狀なかりし失火の原因は七輪の殘火不始末より發したるものなりと

●鐘路の火災
原因は炭火

廿五日午後九時四十分頃京城鐘路五丁目百廿七番地薪炭商安順明(四六)方より出火したるより鐘路、昌德宮、黃金町、南大門等の各常備消防隊鍾路署警官出動し鎭火に努めたる爲め朝鮮建瓦葺一棟一戶の內半燒三坪にて同十時二十分頃鎭火したり失火の原因は同人は薪炭商の事とて店頭は薪炭を堆積し次の土間に於て破れバケツに炭火を入れて暖を取りたるものを店仕舞の際奧の溫突室に持ち行きたるにバケツの横の破れ穴より火洩れ落ちて遂に燃え移り其れより薪炭に延燒したるものなるが損害額約百圓なりと

●女湯の方に細菌が多い
風呂水の研究

京畿道水道係では此の程入浴用水として水道水を使用したるときその水質の變化並に汚染程度を調査したが井水を使用した風呂水は早朝から不潔で恰も水道水を使用したる風呂水の夜の汚染程度に匹敵するのを認めた永樂町の或る水道水を使用する湯屋で午前八時、午後三時、午後十二時の三回湯壺の水を採酌して之を水道水と比較して見たのに濁度は朝が男女湯ともに二度で午後三時は男湯六度女湯八度になつて女湯許りが濁りを增加したが夜十二時には兩者ともに十四度となつた

▲鹽分即ち汗や垢 に基因するものであるそれは朝は五の割合で晝三時が七となり夜十二時には十二の割合となり男女共に大差はないが少し女の方が少くない水の硬軟は午後三時までは水は硬いが三時からは著しく軟かくなつてゆくこれは石鹼の爲めに水の硬性物質が變化をするからである、有機物即ち

▲垢や皮膚の表皮 は朝が三の割合で午後三時になると男湯五女湯七の割合となり夜十二時には九の割合となつて男女共に大差はないが垢の落し方は女の方が少し多い樣である、その他亞硝酸や安母尼亞と云ふ蛋白性の腐敗物質も午後の三時頃から顯れて來る細菌數は割合に少ないが少し性質の餘り良くない細菌が多いそして男湯よりも

▲女湯の方が多い のである右の試驗は勿論入浴人數及び水溫度等にも依るが大體惡井水を使用する風呂水は朝から水質がお話にならぬ位不潔であるが水道水を使用すれば水は午後の三時頃迄は餘り穢れて居ないのである、であるから水道水を使用する一般の家庭の風呂で十人位が入浴した水は大した汚染(公衆浴場に比し)と云ふ程に心配するにも及ばないと思ふが公衆浴場では殊に夜遲く又は惡井水を使用する風呂に入つたものは上がるときに上がり湯を以て體を洗ふことを忘れてはならぬ

燒け跡—櫻井町所見

史外史傳 風雲兒(五)
京城時代の袁總統

◆彼岡々日を消す 外國人が小兒をロースにするとの噂

對日本亡命客引渡及び對英國巨文島還附問題に見事失敗した彼は朝鮮朝野の信望を失ひ、此の際に於て露國公使ウエーバル氏の跳梁するを見て心中穩かならず、其の後復に讒侫心を苦しめた。此の時京城市中で時々小兒の紛失する事があつたが支那人側から起つた風說に、近來外國人が朝鮮の子供を奪つてロースにして喰べるとのことであつたので、城內の鮮人間に一般に排外思想が高まつて歐洲人は外出すると石を投げられると云ふ風で非常に危險に陷り、露國は遂に警備艦を仁川に回航せしむる事となつた。此の排外思想は遂に日本人の上にも及び日本でも軍艦高雄を仁川に回航して萬一に備へる程の騷ぎであつたが、獨り支那人のみは此の赤兒奪りの嫌疑を受けなかつた、しかし、騷擾が靜まつて後に子供の行方不明になつたのは支那商人等の所爲であつて、外國人が朝鮮の子供を折々失くなつたとロースにして喰べると云ふ風說も支那人の間から出たと云ふ事が分つたので、彼の信望は益々失墜する一方であつた。

◆苦肉の計を案出 朝鮮の大官連狼狽して泣き出す

愈々不平に堪へられなくなつた。恰度明治二十一年の春頃であつた。或日彼は自邸へ朝鮮政府の大臣大官十數名を招待して午餐會を催した。宴酣にしてあはたゞしく馳込んだ給仕が一通の電報を彼の卓上へ差し出した。彼は何心なき體にて電報を開封し、思はずアツと叫んだので、同席の朝鮮大官連は何事ならんと一同彼の顏へ視線を集めると、彼は如何にも意外千萬と云ふ顏付で電文を朗讀した。其の電報は奉天總督から發しられたもので朝鮮へ問罪の爲め千餘の兵を發すとなり、不日討伐軍は奉天を出發すと云ふので有つた。並居る大官連が何れも色を失つたことは言ふまでもない。或者は食を口にした儘驅け出して王宮へ泣き込んだ。從つてまた宮中は悉く色を失つて、今日にも支那兵が亂入するかと假に上を下への大騷動であつた。しかし何と考へて見ても支那に對して討伐を受ける程の惡い事をした覺は無い。何にしても彼に尋ねて見れば分るであらうと、直ちに彼を宮中に迎へ入れて、直接王から彼に對して淸國出兵の理由を尋ねて見ると、彼の答へに、自分も一向に其の理由は分らぬ、併し或は出兵の理由とする處は朝鮮政府は大臣趙秉世の名を以て某國へ保護依賴の文書を發したとの事であるが、此の事實を淸國政府の知る處となり、問罪の師を出す事と爲つたのではあるまいかとあつたので、王は早速趙大臣に其事の有るや否やを確めたところ無く、其の如き文書を送りたる事實更に無く、其の夜宮中は終夜鳩首凝議の結果兎に角討伐軍の出發前に於て出兵を止めて貰ふより外はないと、未明より各大臣交々彼を訪問して出兵中止に就て哀訴歎願した

◆外交團啞然たり 外國との通信連絡全く遮斷さる

けれども彼は頑として其哀願を拒絕した。其處で朝鮮政府では各國公使館に使を出して淸國出兵の實否及び其の理由を照會した處、各國公使等も全く寢耳に水の驚きで早速本國へ電報で照會して見る事とした。處が其の頃の電報は何れも支那經由で京城の支那電報局の手に由らなければ打電する事が能きない。處で電報局では其の前夜から電線に故障が生じて通じないと云ふので一切電報を受付けない。また當時日本との交通は日本郵船會社の定期船が有つて、一週間に一度宛往復して居たが、是れも恰も前日朝仁川を出帆した後で、次の期日まで入港しないと云ふので一切通信連絡が絕たれて居つたので、各公使も之れには顏を見合すばかり開いた口も塞がらなかつた。

●火災後の市場

釜山西部日鮮人日用品一式の需要供給所たる日韓市場全燒に就ては尠なからぬ不自由を感ずる所から伊藤管理人は直に燒跡を片付け天幕を張り平常通り市場を開設せり而して同市場は朝鮮市街取締規則に依り今後は府直營となるやに噂するものもあれども其れには種々協議の要もあり當分現狀のまゝなるべきか(釜山)

●面當に縊死

仁川署管內富川郡永宗面中村里五統一戶李學行(五〇)は去る二十三日午前六時頃同里六統九戶金連在方表門軒先に藁繩にて縊死を遂げ死體は例に依り檢視の上家族に引渡さるる自殺の原因は借金を火の付く樣に催促されて其の無情を恨み面當に門前にて縊死を遂げたるものなり

●仁川靑年會新課目

仁川基督敎靑年會に於ては從來研究會を組織して外國語の研究を爲し來れるが尙二月一日より每週火曜日に獨逸語を加ふる由にて講師として東京外國語學校卒業の中澤英次郎氏其任に當る由

●連絡船上陸客

廿五日午前釜山入港新羅丸一二等客……

天氣 くもり
▲一月廿七日 曇り但小雨

陰暦 十二月二十三日 西暦 一月二十七日

謹近火御見舞 京城櫻井町一丁目 日用雜貨商 藤井商店

謹近火御見舞 京城櫻井町一丁目三七 雜貨商 鈴木龜藏商店

謹近火御見舞 京城櫻井町一ノ六六 履物商 高島要次郎

謹近火御見舞 京城櫻井町一丁目 東鄕藥房

謹近火御見舞 京城櫻井町一丁目二七 質商 松浦質店

謹近火御見舞 京城櫻井町一丁目 米商 正木商店 電話二五三二番

謹近火御見舞 京城櫻井町一丁目三八 彫刻看板 宮原看板店

謹近火御見舞 京城櫻井町一丁目 食料品雜貨商 下村商店

謹近火御見舞 京城櫻井町 大正館 新田耕市

謹近火御見舞 京城櫻井町一丁目七十番地 質商 西川健次郎 電話百番

滿蒙處分論 クロパトキン將軍原著 日本大井包高譯著 定價金一圓 郵稅十錢 京城日報代理部 振替貯金京城三〇〇

肥料 大豆粕現先物 硫酸アンモニア 過燐酸各種 石灰窒素 燻草肥料 果樹肥料 油粕各種 智利硝石 硫酸加里 內外輸入肥料一式 稻麥肥料 各作專用配合肥料 先物豫約販賣仕り候 滿留嘉久肥料店 大邱驛前 滿留嘉久支店 釜山驛前

大勉強仕候 淺草海苔 東京府下大森町 藤森商店 電話大森四一二番

寫眞器械 材料及藥品 直輸入商 コロタイプ印刷 大連市大山通 光明洋行寫眞部改め 佐野洋行

…び家屋合して約五萬圓の財産…ろ者なるが今回祖國に於て[illegible]召集せられ不日出發の筈なり

●自轉車持逃げ 京城敎義洞[illegible]目の野間某に二十五圓[illegible]受け其儘京城に持ち來り永樂町二丁[illegible]乘し去たるもの

[illegible]四番地[illegible]日午後七時半頃[illegible]十二月四日生れ[illegible]の朝鮮人男嬰兒を白木綿に包みて遺[illegible]り嬰兒の泣聲に依[illegible]より京城府へ引渡し

●阿片の密賣 支那山東省[illegible]遺棄者嚴探中[illegible]製阿片を三十[illegible]に購入し前同樣[illegible]製したる所を[illegible]路の警官に發覺さ[illegible]

●もう寒くなるまい

柳の芽が膨らんだ――春三月の暖かさ――世界の氣候の大循環作用――何百年目の異例

之れからほんとの寒に這入るであらうと思はれた二十三日から五日までの寒氣も二十六日に成つて復々もとの暖かさに成つて柳の梢やポプラの枝など何んとなしに青みを帶びて來たようである氣溫のレコードから云つても二十六日は夜明けの一番寒い時が攝氏の零度から僅かに八分下つたばかりであつて正午の溫度は三度五分まで昇つた此の氣溫を例年の暖度に比べて見ると

恰度三月十四五日頃の溫度に相當す

るのであるから柳の芽がふくらんで來たのも無理からぬ事だ京城の一月下旬の最低氣溫は過去八年間の統計に由ると零下五度八分を昇つた事はなく降下のレコードは昨年の零下二十一度と云ふ如うな事もあつた處が本年は一月八日に十二度一分華氏四十九度二日が十度九日の九度八分と云ふ

京城測候所の開始以來の新レコード

を作つた此暖氣に就て高島測候所長は語る京城が斯の樣に暖かいのは人の話しの樣に山に木が繁つた爲めでもなく又た内地人が多く居住する樣になつた故でもない之れは三寒四溫が交々來るやうに

世界の大氣候の巡環の作用で何十年

又は何百年一回と云ふ樣な珍らしい寒又は暖の氣候が廻はり合せるのである例年冬になれば支那大陸に優勢な高氣壓が發達しその爲め朝鮮は絶えず北方より寒氣の來襲を受けねばならなかつたが本年は此の支那北方蒙古地方に高氣壓が發達しない個々

發生しても流動的で直ちに消滅する

又一方南方揚子江地方へは折々高氣壓が發生するが之れは南方の氣を含んだもので其の爲め甚だしい寒氣を齎らす如うな事は少ないこの二三日前の寒さは揚子江方面より深度の低氣壓が朝鮮南東を通過した後から北支那方面から襲來した高氣壓が通過した爲めであつたが其の高氣壓は例年ならば蒙古に入つて寒風を朝鮮に送るべき處であるが

それが流動的で消滅して終つたので

最早今年は寒くは成るまいと思はれる昨年十一月十二月も例年になく暖氣であつた爲め若し普通の寒に復するとすれば遲くも一月中旬であらうと觀測して居つた處其の時期も暖氣に過ぎ最早氣象の配置は春と同樣であるから今後二月中旬頃まで一上一下寒氣交々來るかも知れぬがその寒さは

恐らく零下十度を下る樣な事は絶無

であらうと思はれる二十六日の南方支那に起つた高氣壓は揚子江一帶より南東支那海及び朝鮮南部海岸に向ひ一方東蒙古から淺い低氣壓が起つて此朝鮮を通過せんとして居るから曇天になつた少しばかりの降雨か降雪後或は多少寒くなるかも知れぬが最早今年は恐るべき寒さの來襲る如な事は有るまい

●南支那海の不安

海賊現はれて定期航路を脅かす

香港より當地在住支那某商館に達せし通信に曰く數日前香港汕尾間定期航海を爲せる支那汽船瑞豐號は汕尾を出帆して香港に向ふ途中乘客にまぎれて乘船し居たりし二十餘名の海賊現はれ出で短銃を手にし船内の掠奪を始め抵抗したる印度人二名を銃殺し船員乘客を脅迫したる上船長の保管の金品積荷中の貴重品を掠奪したる所へ一汽船の來るに會し海賊等は狼狽しつゝ同船の端艇を卸し掠奪品を之に搭載して惠州灣内に逃走せり惠州は革命黨の手に歸し其守備兵は他に引揚げ全くあらず察するに右の海賊は革命黨員にして船を奪ひて軍用に供せん目的なりしならんと(長崎特電)

暖日――風船屋の前

●工事監督吏の收賄發覺

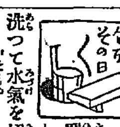
昨大正四年六月より十二月迄に竣成すべき釜山第二尋常小學校增築金一萬一千四百餘圓の工事請負者松田定次郎より該工事監督府吏立野芳之助は現金物品合せて百五十圓餘を收賄し本年正月郷里愛媛縣に歸省せんと下關に至り瀨戸内海を渡らんとする時既に事件露見釜山警察署の通知に依り下の關警察の手に逮捕されたり(下關特電)

●擱坐英船離礁

二月の初旬か

昨年末臺灣東南端火燒島南寮溪に擱坐せる英國汽船オーストラリアトランスポート號は積貨を排除し排水に努力臺灣總督府よりは奉天丸をして石炭其他の供給を爲さしめ香港よりは外人技師渡來し救助に盡力しつゝあるが船首は岩礁に突込み膠着し居る模樣にて離礁頗る困難にて今後約一週間を要すべく遲くも二月上旬迄には離礁し目的地たる浦鹽に向ふべしと(臺北特電)

台所 その日



△白菜サラダ 白菜をきれいに水洗ひし幅が廣いから三たて位に切り更にこれを線に切り洗つて水氣を切り置きます切つたのが三合位もありましたらサラダ油ペープ匙に四杯酢二杯胡椒を小匙に半分汁茶匙二杯等をよく混せ合せ此中で白菜を和へて小丼に盛て出します

△豚肉こんにやく煮附 豚肉百目を三十分間程茹で冷まして極薄く小さく切ります蒟蒻一枚を縦四つ位に切り汁の浸み込む樣に手でちぎつて茹でてから前の豚の茹汁の中へ豚と一所に入れ砂糖と醤油とで甘加減に煮よく煮詰めてから少しの胡椒を振りかけます

商況

東京債券現物特電

二十六日出來値段(前日との比較)

甲號五分利公債	七二、五〇	[illegible]
朝鮮銀行	一五八、五〇	[illegible]
南滿鐵道	一五〇、〇〇	[illegible]

東京公債直取引電

二十六日出來値段(前日との比較)		
九五分利公債	九五、一〇	[illegible]
二分半公債	[illegible]	[illegible]
二回四分	[illegible]	[illegible]
甲五分	[illegible]	[illegible]

深川在米特電

二十五日現在高		
朝鮮米	一九一、三三八五	
臺灣米	八六二、二四七	
内地米	二二〇二、九三六	

東京期米特電

廿六日前場二月限	
寄付	一三、九六
高値	一四、一五
安値	一三、九一
止め	一四、〇五

大阪株式特電

種類	拂込額	前日後場止値	二十五日後場
宇治川水	五〇、〇	……	七二、五〇
神戸電鐵	五〇、〇	……	……
京阪電鐵	五〇、〇	……	五二、〇〇
和歌山紡	三五、〇	……	……
合同紡績	三〇、〇	……	五九、四〇
鐘淵紡績	五〇、〇	……	一三七、七〇
同上新株	三五、〇	……	一三一、一〇
東洋紡績	三五、〇	……	九八、〇〇
大阪商船	五〇、〇	……	一三五、五〇
日本郵船	五〇、〇	……	一三九、〇〇
大阪米殼	五〇、〇	……	一六五、五〇
東京新株	三五、〇	……	一六五、〇〇
大阪株式	五〇、〇	……	三五四、六〇

大阪三品特電

二十五日前場		
一月限	一二〇、四〇	一二一、一〇
二月限	一二一、一〇	……
三月限	一二二、五〇	一二二、一〇
四月限	一二三、三〇	一二三、一〇
五月限	一二四、一〇	一二三、九〇
六月限	一二四、七〇	一二四、七〇

大阪期米特電

△二十六日前場	
當限寄付	一三、六九
中限寄付	一三、九三
先限寄付	一四、六六
止め	

下關期米特電

賣買停止

朝鮮物産特電

馬山改支	三、四〇	
晉州改支	……	
鎭南浦改支	二、一〇	
木浦改支	三、一〇	
同改支	三、三〇	
群山特改	……	
同改支	二、〇〇	
仁川改支	二、〇〇	
南浦改支	二、〇〇	
釜山上白	……	
釜山中白	……	
仁川上白	……	
仁川中白	……	
仁川並白	……	
釜山大豆	……	
鎭山大豆	……	
浦項大豆	……	
元山大豆	……	
端川白大	……	
城津大豆	……	
龍山大豆	……	
長湍大豆	……	
平壤大豆	……	
仁川小豆	……	
宜川大豆	……	
平壤大豆	……	
群山大豆	……	
木浦大豆	……	

雜報

●株式人氣轉換

株式界の市況振はず休日明け後に互りて株相場上の動機は先づ同國の紡績株及び砂糖株の如きは其の實質の良好なる爲め昨今相場他の特殊の事情によりて幾分理に適へる居たる觀あり然るに久しく斯界の問題たりし紡績及砂糖株も漸く解決を告げたるに至り既に人氣の轉換を促すに至れるを以て今後の株式市況は[illegible]

●確實 迅速

仁川海岸町 取引所仲買人
廣澤正太郎
電話 六五番 六三二〇番

●精米小締り

地廻り白米は前日來一時十二圓八九十錢の弱含みにて正米は前項の如く持合の陽氣に乘じ精米所各自の見越買行詰まり安値に賣込み過ぎたる如し

十二圓九十錢乃至十三圓賣

●砂糖値上げ

砂糖は其後引續き昨今迄にエッキス騰勢を辿り昨今に十三圓十錢賣を敢行するに至れり

一錢上げの十五錢

●四十圓處に對し大阪相場の昨今の出廻は

平年に比し約三分の一に過ぎず

●一齊買控へとなり圓内外に低落

●毛皮類の近狀

戰後猶遠へ輸出杜絶し共に第一の顧客先を失ひたる毛皮類は爾來一向振はず本年も昨年當時と同樣支那商人の殆ど買附つゝある位にて此盛況を見ず殊に本年は輸入途絶し居る爲め

近年稀有の不獵

●一競爭を惹起すべし

一圓五十錢方の上唱へ

稍々勢を得 徐々買乘り來

●内地原皮市場

●牛皮漸く買來る

田中金次郎

一般委託賣買 京城電話 長二八

●和紙奔進す

和紙は原料パルプ及び製造藥品等の暴騰に依りて各種製品の價格騰貴著しく新規以來洋紙の需給關係より和紙の價格漸く昂騰し[illegible]

操業中止の止むなきに至れり

約一割高

●米餅氣弛む

米餅は其後入荷模樣不明なるも一兩日來商の二回分は引續き出廻り[illegible]

下關相場

約一圓落ちの二十七圓見當を唱へられつゝあり

京城正米

〇朝鮮一等白米(當用)	十四圓十錢
〇同二等白米(當用)	十三圓七十錢
〇元山大豆	九圓八十五錢
〇同	九圓九十錢
〇後館大豆	九圓五十五錢
〇慶山大豆	九圓五十五錢
〇同	九圓六十錢

南大門の廻米

沙里院玄米	一九〇叺	金村白米五四叺
水原白米	三一叺	校山白米四〇叺
長湍	一六八叺	一山白米六六叺
金郊	一三〇叺	小井里白四一叺
鳥致院白	三二七叺	參禮白米二八叺

仁川現物市場

仁川期米

▲二十六日前場

前寄十四圓六十三錢高の入電二節五十錢と安移り九錢と尚高移り一躍三十五錢押し折納九節六十六錢と安移り

大阪八節七十四

仁川米豆取引所

二十六日の三月限

前場	寄付	
一節	十一圓十五錢	
二節	十一圓二十三錢	
三節	十一圓二十五錢	
四節	十一圓十五錢	
五節	十一圓八錢	

賣買取組高

一月限	二百石
二月限	四千石
三月限	三萬四千八百五十石

北濱だより

▲砂糖株の前途

市場零聞

▲前場の商戰

▲前場變動す

▲東京特信

▲人氣大に動揺

昨年賣收額五千二百萬石見當

寄附の此際大阪との鞘

▲人氣變亂す

裏面に頗る好材料の伏在

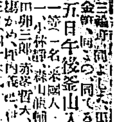
來將に人氣變亂の前説の賣收額果して事實

免や或は一暴騰

主任として永く其業務に從ひ[illegible]りしところ此度光明洋行より[illegible]全部譲受け滿鮮各地に渡り業務の大發展をなす由

▲京城運動

豫報



京城測候所二十六日正午	華氏三十七度八分 攝氏三度三分
前日中最低溫度	華氏二十九度 攝氏零下一度四分

廿五日午後釜山入港弘濟丸二等客一名一等[illegible]

第十六 歐洲戰爭實記增刊 (一月十五日發行)

歐洲大戰寫眞畫報

▼寫眞 歐洲戰場の活況を目睹するが如き寫眞四十餘頁

▼記事 各方面の活材料を提へたる本誌獨特の讀物を滿載す

定價廿五錢 郵稅二錢 發行所 東京本町 博文館

轉ばぬ先の杖

出火に對する防備として凍る憂のない飛行器印粉劑消火器を御備へあれ

特價 貳圓 小包料 廿四錢

製造發賣元 京城本町二丁目 熊平支店 長電話六二四番 振替京城二二二番

國民新聞創刊二十五年記念出版

蘇峰文選

總クロース上製千五百頁 定價三圓五十錢 郵稅(内地書留小包料金三十錢 鮮、臺、滿、樺、同上五十錢)

蘇峰文選の特點は如何

一言以て蔽へば、現代大家の隨一たる蘇峰學人三十年間の傑作を一纏めに通覽し得る事是れ本書の特色とす。本書には、經世的論文あり、修養的記述あり、内外人物評あり、史傳文書の批判あり、小品文あり、隨筆雜記あり「紀行文あり所謂集めて大成すとは本書の謂也。本書は則ち之を經として三十年間國家社會の史實として觀るべく、之を緯としては蘇峰其人の錦心繡腸を觀るべし。本書の内容豐富にして、變化極なきや、一方に「先帝御聖德一斑」の如き最謹嚴の文字あれば、他方に「トルストイ翁を訪ふ」如き情景兼臻る平叙的文字あり。一方に「論語を讀む」如き精審透徹なる文字あれば他方に「女詩人」の如き千韵絶世の作あり長者は千尺の重錦の如く短者は拉雜たる精金美玉の如し。

謹告

初版五千部刊行致し候處忽賣切候に付全力を傾倒して再版製本を急ぎ居り候間玆數日發送遲延致候間何卒御諒察願上候本紙讀者優待券(特價金貳圓五拾錢)提供は去る十二月卅日の本紙に添附有之候

特價期限本月中付に續々御申込被下度候

大取次所 京城太平通一丁目 振替京城三〇〇番 京城日報社代理部

越後大評定

第百十二席　早川貞水口演

渡邊九十郎の歸宅

九十郎は生ける人に物言ふ如く『コリヤ九三郎、左門、惡人に掛て鎮實の武士の最後を遂げしは、定めし殘念なるべし、追付け汝等兩名の泉下に無念は晴らさせ遣はすぞや、只今兄は無事に歸りたるぞ』と稱名を唱へて、姑くの間香を燻らし、淋然と其位牌を眺めて居る、父の左太夫此の樣子を見て、泣き伏て居られました、そこで寺參りを致し染井の御下屋敷を指して參りました、と云ふのは、和尚から綱國侯に御目通りを致さん爲で御座います、頓て染井の

御屋敷、御門を通らうとすると『イヤ御控ひ下さい』九『何事ぢや』○『御目付よりの御門鑑御所持で御座るか』九『ナニ、何と申す、其方共は拙者を存せぬか』○『ハイ、渡邊九十郎樣、存じて居ります』九『其名を知つて居て、門鑑には及ぶまい、此方を何方の家臣と心得て居る御當家の家臣ではないか』○『ムヽ、門鑑など〻云ふものは總て他家の侍が出入するを禁ずるためのものである』○『ヘエー』九『當御家敷の家來が御門を通行するに、何の仔細がある、無禮を言ふな』○『ヘウ』門番縮み上たのは、國表は關根彌二郎、江戶表には渡邊九十郎、兩鬼とまで稱へられ、劒術の達人にして、誠忠無類、門番之を存じ居りますから、今九十郎の大喝一聲のため、戰慄へ上つた○『イヤ、左樣に仰せ付けられてありますから申上た譯で御座います、御通り下さ

れても仔細御座いますまい』九『何の仔細があるものか、ムウ、怪しからぬ事を申す』とズーと御門を御通りになつて、光山樣に御目通を願ふと申入た時に光山樣の御側に只一人附て居りました鶴田采女と云ふ御小姓が『是は〳〵渡邊樣でムいますか』九『オウ是は鶴田殿で御座るか御主君に御目通り致したい、宜しく』采『ハイ、只今申上げましよう』と奥へ行き再び出て來て　采『御待ち遠ほ只今申上ました處、今は隱居謹愼の身の上にて、殊に剃髮も致し居り、人には會はぬのであるが、九十郎なら仔細はないから、早く案內をせいと、大層

喜びで御座います』九『オヽ左樣あるか、アヽ辱けない、然らば御案內下され』打溯れましたことにて九十郎御前へ出ると、以前の姿と事變り、御年齡の弱いのに三河守樣御法體　光『渡邊近う』九『ホヽーウ』一目見上げ參らせると九十郎、ワツト泣出し稍やあつて『男山八幡に御代參者を御仰せ付けられし時は二十四萬石の御家の若殿樣、誠に御立派に見上げ奉りたるに、御代參相濟ませ、立歸つて御目通り仕れば、御甥り果てたる御法體、何とも申上ようなき御傷はしき』光『コリヤ九十郎其身には會はせる面はないぞ』九『恐れ入り奉る』光『定めし其方舍弟兩名の最期をき〻、予を怨み居ることであらう宥してくれよ』九『何と致しても不束なる舍弟、人がましくも御主君へ御諫言申上げ、御手にか〻つて最期をとげましたるは天晴武士の面目と喜び居ります何の御怨み申し上げませう』光『アヽ今になつて其方の忠義、偏更予は面目なく思ふぞ』

お聞きなさい

▲雲南花嫁の奇習　革命軍の立籠つて居る雲南地方では結婚後花嫁が自分の里へ歸る、さうして今度其實家を辭する時には新婦は盛裝も闌はず泣立てる、さうして其場に在るものに手當り次第に噛み附き自分の家を離れまいとする情を示す、新婦の泣く聲が大きい程花嫁の名譽ださうな

▲東京に居た靴公使　帝國ホテルに泊つて居る西班牙公使カーロ氏は恐ろしい靴道樂で合計五十餘足の靴を奇麗に磨き立てゝ並べて置く、又毎日金口の卷煙草を左右のポツケットに十本宛入れて置いて一日に夫れを吸つて仕舞ふのが此人の癖ださうな

▲一寸珍らしい講演會　木曾福島町で去る頃二日に亘つて齋藤と言ふ長野縣技手の講演があつた、併し福島と言ふ處は講演等聽きに來る處でない、夫がため町役場では『當日は第一番の參集者より五十番迄福引景品を呈す』とビラを辻々に貼り幸ふじて七十名の聽衆を得たさうだ

▲年中水泳する村　山陰道殿田驛から田原川の河沿に遡及する事里餘、丹波船井郡五箇所字田原と言ふ村では一年三百六十五日を通じて小學兒童が田原川へ飛込んで水泳を怠つた事がない昨今の寒中にでも矢張り此水流に飛込んで水泳をやつて居るさうだ

▲二十三斤の大烏賊　鹿兒島小根島村磯の瀨の水溜りに退潮に乗り遺れた五尺餘の大烏賊があつた斤量に掛けて見ると體量二十三斤半、肉の厚さ一寸三分、身長五尺四寸五分あつたさうな

▲勳六等の強盜　熊本縣菊池郡戶崎村字今桑原仙藏方へ去夜強盜が入つた强盜は同郡花房村中林一喜(三十)と言ふ勳六等の豫備少尉であつた

▲一度に烟になつた煙草　十九日神戶烟草專賣支局が燒けて四十二萬貫の葉烟草が燒失したが此外來月五日から蒔く煙草の種子千二百町歩も稍魔に燒けて仕舞つた

一月廿八日九星　舊十二月廿四日甲子　本命七赤　西　閉　大安

▲七赤　慾に限のなき事有日新事見合　南方は吉　▲八白　理想調ふ日男子は職に附き女子は吉買物に吉▲九紫　新事手控　諸事は吉　待人來る　▲一白　萬事の好機を得る吉日進で吉女子は一倍よき事有▲二黑　新に樂園を見込のたらぬ事有日新事手控　萬事は吉　▲三碧　不正極ろ事有日　新事手控　職嫁縁取ぐ引　名弘金談求　▲四緑　不平なる斷用心せらるべし　婦人と相談を忌む▲五黄　有日新事手控　萬事は吉　入學求　職建前金談　▲六白　順利の日轉居求職

演藝案內

黄金館　黄金町四丁目　電話二六三七
大陸色活動寫眞株式會社滿鮮一手代理店
一月廿八日より提供の三大寫眞　日本化寫眞(一切り新作)　○維新史傳　虎隊　全三　○泰西探偵大活劇　縱地下室　全四卷　エジプト國王の下にソンと云ふ士官と惡漢が容貌の似て居るを幸とせし惡漢は士官の許嫁に近づき惡事を働かんとせしも探偵ソンの神の活動に依り命に遭遇せしもソン大尉は地下室より救ひ首尾よく惡漢を捕縛　○新派悲劇　回る春　全三卷　波瀾萬丈活劇あり悲劇あり克く現代社會の裏面を描寫して餘蘊なし加へて久方振りに山崎長之輔一派大車輪出演　▲音樂隊の招聘に御申込は電話四七七へ

佐久良座　新龍山
新派自然劇團三輪寶一行
二十七日藝題
凱旋軍人
安田老人(三輪寶)小杉寬(水谷十太郎)花房中尉(水野勇)小杉園子(池田葉榮)町田良太郎(香月晃)小杉親子(司九二夫)壯士菊池(西村健)同阪上(美咲正雄)小杉芳子(都島美夫)守島良平(播磨陽一郎)車夫長吉(朝三吉)

大正館　櫻井町　電話八七三番
廿六日よりの大寫眞提供　○實寫　トロニカの實況　○滑稽人形の弊玉　○喜劇　デンマーク、ヌンマルク會社最近傑作　○軍事大探偵大活劇　黑裝束　全三卷　軍國の機密を探らんと馬丁となりて任み込む探偵の秘密之を探知せられ危險を未前に防ぐ手段に訴へて昨夜黑影一團邸内に亂入す果然惡漢は最后の軍の行動は何等合國の國境の大活劇より遂に汽車の大活劇は如斯して盛地の大秘密を演ず壯絕悲痛　△日活專屬關東聯合波邊二郎立花貞次郎合同一派　△新派家庭劇まごころ　全三卷廿八場　世は無情不和なりし家庭も須臾にして歡樂の境可怖可恐惡戚は一家の呪ひ奈落の底に陷れんとす快の心を以て自己の犧牲として會盟なせる慇しき要領々たる志望は二ヶ年の暗黒　○喜劇三藥奏譽の俠骨　永樂德太郎　全三卷

浪花館　明治町　電話一六〇番
東京落語三遊派幹部一行
御祝儀寶之入船(三遊亭當三)二人旅(柳亭春樂)動物音聲(三遊亭遊三郎)道具屋(三遊亭圓昇)時世笑話滑稽琵琶(三遊亭遊三)大切座員總出即席笑話
三遊亭遊三一行の變觀戲興、大切餘興として二十二日より始めたる塩八景觀爭は非常の好人氣にて發見者にはそれ〴〵景品を呈しつゝあり

御成座　御成町　電話一九一
二十三日目藝題
人の妻
喜劇越後獅子
第一段翻邸座敷第二飛鳥山の場第三村明院破堂第四宮澤邸玄遊會第五下谷藝妓屋第六元の破堂場

壽座　本町　電話五七八
廿七日替狂言
天の橋立譽の仇討
岩見重太郎の傳　大序より大詰まで
岩見重太郎(鯉三郎)妹つぎ子、女房花江(梅若)家老藏人、親庄與衞(雷三郎)赤星主膳(梅藏)松原平右衞門、廣瀨軍藏(光十郎)小早川隆景、茶亭善助、植松藤兵衞(雛太郎)伴闘右衞門番頭丈助(長太郎)
特等七十錢一等五十錢二等三十錢三等十錢

壽館　壽町　電話一〇五〇
廣江黨愛煙家の福音
早稻田大學出身の本多腎浪燕左衞門と浪界の紫式部山本松子合同の浪花節が五錢で聞ける平易へ御出の御方へは下足料共金二十錢で廣江商會の羅しぎ一個を差上げます
この御出の御方へは下足料共金十錢で廣江商會製定價金五錢の福德一個をお早い方二百名を限り差上げます
下足料共金五錢で二階後方で好く聞かれます
十一日目讀物
武士道の響(文右衞門)池田久馬(燕若)神崎與五郎(香右衞門)安兵衞むこ入(むら雲)中山安兵衞(北海入道)女武士道(山本松子)化物屋敷、彌作の諌復、正直車夫(長講三席燕左衞門)

越後產物　地下足袋
朝鮮一手特約販賣
京城本町二丁目　釘本藤次郎本店

流經靈藥　月やく下し
通經劑
▲月やく閉止　▲不通　▲不順　▲困難
に用ひ速に其目的を達し流經作用の偉効なること他藥に優越す藥價九拾錢壹圓六拾錢武圓廿錢武圓九拾錢東京北品川町堂五川特製分五圓四七七八番地　電話芝四武壹武七武八番　振替
日新舘製劑部

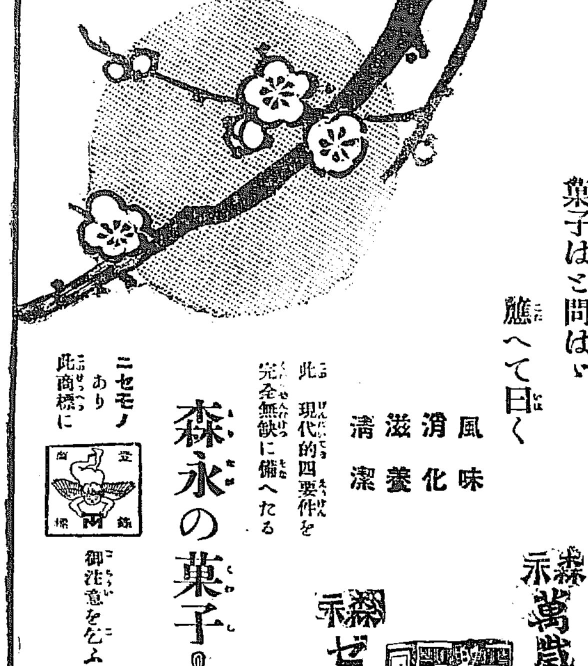
蛇印　アンチピリン丸

かぜねつ最良藥
早く治る藥　よくキク藥
さむけ出で發熱し頭痛し手足だるく水ばな出る時本劑を服せば不思議の効あり(價十錢、十五錢、廿五錢)にせ物有り蛇の商標に御注意
本舖　大阪東京　丹平商會

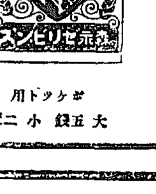
美人(切手一割増)　大阪中之島二　美泉堂
(縱五寸五分橫四寸)露骨〇〇男女〇〇寫眞六枚組◎送料共四十八錢

贊化病院　京城本町二丁目　電話二四一番
入院隨意　普通病室並隔離病室
院長　醫學博士　古城憲治
尿。便。血液。喀痰等臨床的檢査の依頼に應ず(毎日五名を限り無料施療す)

醇良清酒　白鶴
仁川本町三丁目
增本酒店
電話一〇九番　振替京城六一九番


新春の劈頭
本年の家庭常用菓子はと問はゞ
應へて曰く
風味　消化　滋養　清潔
此現代的四要件を完全無缺に備へたる
森永の菓子!
ニセモノあり此商標に御注意を乞ふ
森永ミルクキャラメル

ポッケット用　大十錢小五錢
森永萬歲ヌガー

ポッケット用　金十錢
森永ゼリビンズ

ポッケット用　大五錢小二錢
東京大阪　森永製菓株式會社

二月十二日十三日三日間
記念福引大賣出し
▽當日記念の祝意を表する爲め左の破格品提供仕候
記念かすり　二千反　大特價金八十五錢
▽御遠方よりの御註文
御註文書は賣出前到着候も當日に御取扱申上べく尚御着用なさるゝ年齡、御使用向等仰せ下されば適當品を撰び景品と共に發送仕候
福引券は御買上金高參圓毎に一枚づゝ呈上　總數一萬點
景品目錄
第一等　十五圓(切手商品)　十枚
第二等　仙臺平　十反
第三等　白毛布　十組
第四等　鼠毛布　二十組
第五等　惠比壽紺　百反
第六等　一圓(切手商品)　五百枚
第七等　メリヤスシヤツ　二百枚
第八等　敷布　二百枚
第九等　モス風呂敷　三百五十枚
第十等　縮緬衿　三百掛
第十一等　メリヤス手袋　五百組
第十二等　繻珍弗入　五百枚
第十三等　キヤラコ(半打入)ハンカチー　五百箱
第十四等　惠比壽綿　千個
第十五等　キヤラコ足袋　千四百個
第十六等　千代田袋　千四百個
第十七等　縞風呂敷　千五百枚
第十八等　タオル　千五百枚
仙臺　藤崎呉服店
振替口座東京一七九〇

京城日報
二十七日朝刊
(第三千二十號)

仁川米豆取引所

▲二十六日前場
一月限 一二九、六〇 一一九、八〇
三月限 一二一、四〇 一二二、三〇
四月限 一二三、〇〇 一二三、〇〇
五月限 一二三、八〇 一二四、〇〇
六月限 一二四、九〇 一二四、五〇

▲二十六日後場 大阪前場六十三錢 後場六十六錢の入電なるも、前場六十一錢と安移りに當地當中出來不…先十一圓二十二錢と一錢安に寄付し…したるが後場は大阪の…向強調せず十一圓二十二錢と寄付…其他買にて十九錢迄押し二十一錢と不前調に散會したり

▲後場動かず

▲取組高增大
…大豆迄に四萬〇七百十石と更に五千九百石の增加し新年來…

總督の諭告と吾人の覺悟
二、貿易の激進

尙ほ總督は貿易に關し「歐洲の戰亂は益其範圍を擴大し、慘禍の波及する所、眞に測り知る可からざるに拘らず、我帝國は依然として昇平の慶を失ふことなく外國品の輸入に幾分の減少を來したる外、何等の影響を蒙るに至らず、殊に朝鮮に於ては貿易上却つて良好なる傾向を呈し、最近の貿易年額は出入總計八百六十餘萬圓に達し之を五年以前に比すれば殆ど倍加するの盛況に在り」と云へり、抑も朝鮮の貿易は併合以前に在りても經濟界の發達に伴ひ、年々增進の趨勢を示したりと雖も、併合後に於ては產業上に關する諸般の施設獎勵は、民間企業の勃興と相俟ちて殊に顯著なる增進の結果を示し明治四十二年即ち併合前年に於ては貿易總額五千九百二十七萬二千圓にして其の內輸移出品價二千二百六十一萬七千圓、輸移入品價三千六百六十五萬五千圓なりしもの、大正三年には輸移出品價四千四百六十九萬四千圓、輸移入品價六千三百三十九萬六千圓、合計一億七百二十六萬圓に達し、殆ど其二倍の膨大を來せり、殊に大正四年に在りては貿易商品價額而已を以てして優に一億八百六十九萬九千圓を數へしのみならず、貿易の權衡は輸移出品價四千九百十九萬二千圓、輸移入品價五千九百十九萬一千圓にして差引き九百七十萬圓の輸移入超過を示したりと雖も此の他金地金及び金貨の輸移出一千百七十六萬四千圓、輸移入八十一萬三千餘圓を加算せば、却て貿易總額に於て百二十四萬三千圓の輸移出超過を告げ最近十年間の朝鮮貿易に於て未だ見る能はざりし現象を呈せり今輸移出貿易の狀況を見るに、農產物に在りては年々耕地面積の增加、耕作法の進步、種子の改良、水利灌漑施設の發達等に依り、主要作物たる米、麥、大豆、棉花、人蔘等何れも產額の增加著しく、蠶絲業の普及亦見る可きものあり、水產に於ては內地人出漁者の增加、鮮人漁業法の進步、水產物の保護繁殖、當業者の取締等に依て大に漁獲の增進を促し魚類、魚肥、鯨の如き從來の輸移出品に多大の增加を來せるは勿論、貝類、海藻、明太魚卵、鰮等漸次其販路を擴張せり。又鑛業に在りては官營たる石炭を初め金、鐵、黑鉛等の主要鑛は製鍊設備の進步と有力なる鑛業家の稼行とに依りて益々其產額を增加せるに搗て重石、亞鉛、硅砂等新に產出を見るに至り斯界は此年著しき發展を示せり。尙ほ從來最も幼稚なりし製造工業は當局の獎勵保護、內地人の增加等に依りて大に發達の機運を促進し、紙卷煙草、清酒、醬油等の製造漸次發展せしのみならず、製革、罐詰、寒天、肥料等原料豐富なるものに就き又新に製造を開始せるもの尠からず

以上は併合後に於て輸出の激增を誘致せる直接の原因なるも、其他交通上に於ては鐵道の敷設、道路港灣の修築、沿岸航路の發展、鐵道運賃の低減等に依り、運販を開きて出入物品の集散を容易ならしめ、或は朝鮮に於ては輸移出稅を廢し、內地に於ては朝鮮米移入稅を撤せる等、諸般の施設改善が間接に朝鮮貿易の發展を助長したること尠少ならざるは言を俟たず

支那の鐵道 (廿)
計畫諸線(上)

是れまで述べ來りたるは支那に於ける現存の鐵道及び一九一〇年以前に敷設權を附與せられたる鐵道なり其後に於て新たに與へられたる敷設權利は可なり多く、殊に支那が共和國を建設したる以後に附與せられたる權利は極めて重要なるもの也。

佛國人は一八九八年にパコイより洪江沿岸の一地點まで線路の敷設權を獲得し、一八九九年には廣州灣と雷州の反對側に於ける一港灣とを連絡する線路敷設權を得、又一九〇九年にボーリング商會は廣西省桂林より西江と南江との支流點なる潯州まで延長二百基米の線路測量權を廣西省政府より與へられたり。白耳義人は一九一二年に河南府より西安府までの線路を含める鐵道にして蘭州より海州に至る線路敷設權を得たり、後に海州終點を海門に變更し、一千萬磅の資金を契約し既に支那人の手にて三十哩を敷設せり。英國商會フキス、ベドーズ、アンド、ブレーは之れが材料を供給したり。尙新民屯法庫門線及び錦輝愛琿線は其の歷史極めて興味多きも未だ實行の緖に就けるものなし。

一九一三年といふ年は殊に鐵道事業の活動に關して注意を要する年にして、此年に於て成立したる諸計畫は殆ど支那鐵道史に一の記錄を作るものと謂ふべし。白耳義人は此年に大同府成都間の敷設契約を結び、雲南府成都間の佛國鐵道計畫を生じ、粵漢川漢兩鐵道の竣工と共に印度支那と張家口間に直通列車を發するの豫定なりき。此契約による外債は一千萬磅なり。次にボーリング商會は湖北の沙市と貴州の興義府とを連絡する線路敷設の契約を結びたり。此鐵道は成都と山西とを連絡すべき支線を設くる豫定にして全線成るの日には延長八百哩に達すべし。

一九一三年の末に獨逸資本團は支那政府との間に二線路の敷設協約を締結せり。即ち一は山東鐵道の高密より沂州府を經由して韓莊に至り津浦鐵道及び運河に合する線路にして、他は濟南府と順德府との間に於て津浦鐵道と京漢鐵道とを連絡すべき豫定線之なり。

國運の孤立的發展
況獨逸主義に鑑みよ
某有力者談

早いものだ戰爭が始まつてから早くも一年半經つた、熟々思ふに此一年半と云ふ年月の間に於ける日本の變化には著しいものがある將來の事は元より斷言し得ないが裏心の聲を洩せば何となく

△憂心に堪へない ものがある、夫れは日本が第二の獨逸となりはすまいかと云ふ事である。勿論一事象を以て直ちに其と斷ずる事も出來ないが例へば歐洲戰爭勃發に連て日獨干戈相見ゆるに至つた時國の上下は相共に獨逸の態度を批難し其橫暴其專恣を憤つて居たが一年半の間の經過を見るに日本の上下の心はいつとなく獨逸に傾き獨逸に感染して居る。獨逸が現に列强嫉視の焦點となつて居る、最も究極な根因と言へば軍國主義を擧げねばならぬが成程獨逸の軍國主義は僅々百年にも足らぬ間に今日の大勢力となり全歐洲を席捲しつゝある、是れ全歐洲の恐怖であり不安である。默して坐せば全歐洲は其爲すが儘に任せなければならなくなる今次の大戰爭に全歐洲が殆んど總てを擧げて大混亂を爲すに至つたのは又故なしとせぬ

△說を爲す者あり 曰く英國の國是は全歐洲に於て自國より以上の强大國の出るに際しては必ず餘の弱小國を誘うて討ちに懲る而して最後に於て如何に與國は危地に陷つても英國自身は安然たる位置に在る樣にして居る、奈翁第一世戰爭の時もさうだつた、今次の大戰に於ても亦さうである、即ち獨逸の軍國主義は英國の忌諱に觸れた譯である而して英國の策に依つて聯合國一齊に起つた譯である、勝敗の奈何は今日は將來の日本である將來を慮ふる前に先づ現在を顧みなければならぬが現在の日本は果して與國ありやと借問し度い成程日英は同盟してゐる最近日露の國交は親善を極めてゐる、併し乍ら是れ如何なる程度に於て相許すべきか、如何なる期限に於て相共にすべきかは重大な問題ではあるまいか、約言すれば日本帝國の膨脹は遂に第二の獨逸となるが如き事なきや否や而して現在に於ても將來に於ても日本の孤立は憂ふべき結果を來しはしまいか是れ予輩の深く憂ふる處である

すべくもないが獨逸にして大敗するとしても更に其次に起り來るべき優勢國が英國でない限り英國は更に弱小國を誘うて今次と同樣な大戰を起すであらうと、英國が自國より優越した國に對して自國保安の爲めに餘小國と聯合するしないは問題外とし强者に嫉み多きは世の習ひであるても或は英國無くとも獨逸の暴に對しては全歐洲は默してゐなかつたかも知れない思ふに日本の陸軍は獨逸の戰前五十三箇軍團に比すれば餘りに其差の大なるに惝怳たらざるを得ない、日本の海軍は英國の其れに比して殆ど比較にならない程である併し日本の陸海軍備は非常に均整して居る、兩々相並んで孰れ劣らぬ勢力である、英國の大海軍小陸軍、獨逸の大陸軍小海軍に對比すれば日本の陸海軍は共に未だ大と稱する事は出來ないが

△中陸軍中海軍と 稱すべきである、而して若し何れにしても大と稱し得るに至る時は他の一方も亦大と稱し得るに至る時である此の時機こそは軈て東帝國の理想であり最後の目的ではないか、目的の成る成らぬは一に國民の覺悟奈何に繫る大節である而して茲に稽ふべき

議會覗き
東京支局 一記者

政府對貴族院の兵器費却代金問題は交涉不調に歸して物別れとなつた儘▲こゝまで押詰めた以上、最早や貴族院全體の主張であつて各派の主張でないから窮通の道も一寸開けないといふやうな譯▲斯うなると何うでも斯うでも一ト先づ交涉開始以前の狀態に立戾り直に分科會を開いて臨時軍事費の審査を始め▲篤と兵器費却代金收支の事實を審明し憲法及び會計法規等各方面の關係を査覈して愈々貴族院の主張が正當だといふことを確實にした上▲其善後の方法迄を分科會で立案し夫れから豫算總會の議に附さなければならないといふ順序になる▲其れから果して違法取扱の議決となるか若くは豫算を否認するか夫とも將來を警告して濟くに止まるかは夫からの問題▲全體今回のことは全く政府が始めから貴族院の態度を誤解した失敗であつて▲從來の政府の行り口といふものは何んでも各派一名づゝ位ひ例へば曾我子、三島子、田男といつたやうな顏觸れと會見し稍め一致點を打合せた上改めて各派交涉委員と協定したのだから大抵は圓滿に運びたま〳〵不調となつても今回のやうな行き詰り方はせなかつた▲所が今度は何うかといふと事面倒と見てとり周章て秘密會を開いたり▲何んかして何等豫備的行動もなく突然多數の各派交涉委員を招いて而かも豫算總會開會中數回に亘つて會見を重ねたなどは拙中の拙▲斯して政府が何時までも具體的に誠意の案を示さない以上政府自ら責任を取るの破目に陷つたならば意外の結果を見るやうになるは火を睹るよりも章かといふ次第だが▲是れ政府自から招くの禍であつて貴族院の責任ぢやない▲と某子爵議員の時局談を其の儘拜用(二十三日記)

コツパ會新年句會

一月廿三日 鶯谷の御隱軒にコツパの新年句會を開いた。集まつたものは魚骨、黃丘、湖東、田柿、蝶川、亂石、湖村、小蟹、靜軒の九名、炭つぐやうな寒い日で風呂に溫まるもの、火鉢を抱へて笑ひこけるもの、何作るもの、何作の餘裕な鳥籠に跳ける句を見るやうだつた、大塊、紅骨、白晚、芙蓉は課題だけ送つて來た。課題梅、寒念佛、笹啼、席題冴え返る、蕗の薹の五題を了へ、寄せ書きなどに興じて全く散會したのは十時頃であつた(靜軒記)

▲梅
花二つ三つ枝疎らなり老の梅　大塊
江東は梅太皷に梅早し　田柿
梅洲の月に水車のきしり哉　黃丘
鉢の梅三寒の日を綻ひぬ　魚骨
我が組居に占めて百餘年梅の園　白紅
梅咲くや書院の窓の紙白き　芙骨
盆梅の床に散りけり靄れけり　靜軒

▲寒念佛
行事多き寒念佛や京の人　湖村
鐵滓の凸凹路や寒念佛　來晚
寒念佛貧しき街を吹かれ行く　芙蓉
信佛や寒にも熱き御念佛　大塊

▲笹啼
笹啼の遲速日記に句屑拾ふ　湖村
笹啼や茶の花垣に雪光る　魚骨
笹啼や庭一ぱいに日の當る　白紅
落葉ある柚か細徑笹啼す　亂石
給馬見俺ればコソト笹啼す　田柿
田園の詩趣深秘笹啼ける　小蟹
土藏ありて笹啼深き哉　蝶川

▲冴え返る
冴え返る日や大映ゆる水車小屋　湖東
いたはしや兒の凍瘡に冴え返る　亂石
▲大地震より歸途を偲ばれて
冴え返る好餌に飽きし猿の顏　湖村
搭國の馬面百種や冴え返る　田柿

▲蕗の薹
蕗の薹垣崩れ土ふくやかに　小蟹
竹籔の遏り引かる畷路の薹　湖村
蕗の薹搔きためし落葉焚く夕　蝶川
溪村の馬糞おさりや蕗の薹　黃丘

京日詩壇
齋藤三貢 選

○新年發會分韻得東
一日清筵興未窮、○滿堂藹々見春通。○文人墨客互交膝。○迎得龍年氣吐虹。
評曰 即意即妙　岡山 牧雲

○寒夜不寐口占
凍雲低壓破窓寒。○况復淒風叩夜闌。○衣被如冰眠未就。○殘燈明滅思漫漫。
評曰 不弄巧而却巧　高橋 公齋

○同上
急霰如丸打瓦撑。○四鄰寂寞一燈青。○吟錐股非吾事。○獨把吟林影伴形。
評曰 跌宕奇姿、委態橫生。　永井 烏石

○丙辰新年
寒通重衾料峭風、○欲眠百計總無功。○君不到詩成未。○爐畔空圍活火紅。
評曰 寒夜實況

○同上　小永井 槐陰
情同父子義君臣。○四海謳歌聽帝仁。○大運逢聖淸日。○一平明洗碩頑王春。
情同父子義君臣。○皇化遐覃率土濱。○北東西南七千餘萬太平民。
評曰 二首穩秀自然

日報俳壇
雉子郎選

北風
北風の戶に物喰ふや下山衆　橙黃子
甲斐なき診察伸上り北風吹く　同
北風吹くや狂人檻れに閉す　雲帝
靜かに酌む心裏忙し北風吹く　同
北風や挨たれ犬を圍み立つ　如泥子
推の日は消えて北風吹き募る　容堂
北風や廢宮の前默淋し　蘆中子
馬おそて川に荷寄の北風吹く　竹水
銅貨よむ掌冷し外は北風哉　右門

枯野
枯野來し人の唇の蒼さかな　東村
枯野路や明太魚干す馬の列　韭城
人も居ず空家とも見ゆ枯野中　扇城

冬山
白搗くに讀む眠るや四山かな　橙黃子
馬車の客窮と知らず山眠る　同
眠る山越えて古驛に甕餉哉　韭城
電線の切れて殘るや冬の山　蘭谷
冬山や目腐縮馬で過ぐ　巴雪

本紙定價 一部金二錢五厘 一ヶ月金四拾錢 郵稅共一ヶ月金…
廣告料 五號活字一行金…
發行兼編輯人 奧田直毅
印刷人 登口政太郎
發行所 京城太平通一丁目 合名會社 京城日報社
電話 編輯局 長 … 營業部 …

京日案內
◎普通 一回前金三十錢(無割引) 假名一回每に金五錢增
◎看護婦募集 希望者は履歷書携帶本人來談あれ 南大門通三藤木商店橫入 胃腸病院 296
◎外交員採用 月給拾五圓以上希望者履歷書携帶本人來談 ○京城花園町一二三 ▲帝國圖書普及會支部 249
◎番外 一回前金六十錢(無割引) 假名一回每に金五錢增
京城日報 初號より四十三年迄取揃へ相當代價に讓受たし (住所姓名在社)
皮膚病花柳病 專門 須古醫院 京城永樂町 電話三一〇番 243
◎質 南海質店 完全なる倉庫の設備あり 京城吉野町一丁目(南海湯下ル) 191
恩給 年金扶助料 無保險低利長期 立換短期 不便地方在住者上京に及ばず 其他擔保信用貸 仕候 京城南大門外 御成町 山口屋 224
質 堀佐營業所 京城黃金町二丁目(永樂町停留所北入) 電話六三九番 232
開業資金貸 及秘密厳守 返金の誠意有る方に對しては特に低利御相談に應ず 京城永樂町一丁目 商品陳列館前横入 秦質店 250
結核 注射療法 皮膚病 古賀液注射 (入院隨意) 京城南山町二丁目 松岡醫院 電話六七五番 261
社費 女教師養成 年齡廿歲以上 履歷書携帶本人來談 ○京城黃金町二丁目 シンガー會社 京城支店 270
大生蠣洋食向 普通蠣(西子募集) 卸問屋 京城旭町二丁目 電話一五六七番 三友商會 278

講談 落語 娛樂世界
御待兼の二月號
□織田大炊 錦城齋典山
□落語にう 三遊亭圓右
□怪傑 璃僩右衞門 桃川燕玉
□王子の幇間 春風亭柳枝
□鼠小僧と長山殺し 悟道軒圓玉
□三升家小勝 一立齋文車
□喜劇 黃門記 非星検め 三遊亭圓右
□落語 夢てん 柳家小せん
□德川家寶藏破り 岡村柿紅
□奇譚 麗女の戀 岡本綺堂
三千兩黃金米櫃(五十頁の大長講) 柴田薰
□お光の手紙 吉井勇
□築地草 永井荷風
□奇譚 國事探偵 松居松葉
□鳥羽のロマンス 江口蕃
□賢子教ふ可らず 岡 太郎
□節分と追儺 英齋鵬南
□紫女のゆくへ 島田三郎
□西洋活動寫眞譚 志 佳
□越路太夫の七日 鬼 太郎
□大懸賞發表及募集
價金二十錢 送料二錢 半年一圓二十錢 一年二圓四十錢 送共
東京日本橋區本石町 鈴木書店 振替東京二一二七

一体支那はどうなる？ この問題の解決にヒントを與ふる者は本書也
東京帝國大學文科大學教授 文學博士 市村瓚次郎先生著
支那論集
菊判三百九十頁 ◎定價金壹圓廿錢 郵稅八錢 登權鮮支十四錢
支那は東洋のスフィンクス也、山東支那を論ずるの書、汗牛充棟も啻ならざれども、將來を豫言して一も當たるもの なし、特に博士の支那は後日に至りて帝國的中せざるものゝ少しも將來の事を論ずる能はざるの事は博士の 眞の支那は此論文… 東洋の情勢世界の大局に留意する者は必ず一讀せざるべからず
東京神田 富山房 振替一〇五

開業廣告
元仁川病院長
內科專門 醫學士 齋藤韓
京城、仁川、水原 往診ノ需ニ應ズ
龍山元町二丁目六十五番地(龍山ホテル前)
電話 二五八番

與謝野晶子女史著作 明るみへ
自傳小說
與謝野夫人の家庭と交友とを背景として最も誠實に書かれたる自傳小說である。熱情の人である夫人が家庭生活の沈滯に一轉機を開かうとして懊惱し努力せられる所に多大の教育味が溢れて居る。戀と花と太陽とを讃する女詩人の一面に此灰綠褐紅の幽愁を漂はすを見給へ
津田青楓氏裝幀 中澤弘光氏畫 (最新版)
布表紙製本極美 菊半裁判五百頁 函入全一册 定價金壹圓拾錢 送費內地六錢
發兌 東京麴町區平河町 金尾文淵堂 振替東京三八一七
發賣 東京市京橋區銀座 東海堂書店 振替東京八六七番

殺菌除蟲 サンソー液
サンソー液一樽と—害蟲菌一匹といづれが重大なりや？
果樹栽培家の大福音！害蠶の豫防は今この時！
農蠶用諸機械並に肥料 三輪商會 京城南大門通三丁目 電話三八六番 振替口座京城三七五番
鐵工場 京城旭町二丁目 木工場 京城黃金町一丁目 戶田春藏

第三十七回帝國議會

貴族院（二十六日）

▲第六分科會
總督府財政問答

貴族院第六分科會（朝鮮總督府財政）は二十六日午前十時三十分開會荒井度支部長官より總督府豫算の全體に亙り說明ありたる後藤田四郎氏は朝鮮國稅及び地方稅の增減に關して質問し荒井長官數字的に詳細なる說明をなし藤田氏再び製鹽事業の狀況に付き質問せるに荒井長官は朝鮮に於ける鹽の製造高が年々增加しつゝある事實を辯明し夫より酒稅の標準朝鮮人蔘の輸出先鹽の需要供給等の狀況に付き藤田氏稻垣太祥子東鄕安男と荒井長官との間に問答あり東鄕男再び朝鮮に於ても鹽專賣實施の計畫ありやと問ひたるに荒井長官は將來專賣としたき希望ありと答へ次で稻垣子は森林製材問題に付き小松謙次郎氏は鑛山及び烟草製造及び關稅問題に付き荒井長官と問答あり最後に河村讓三郎氏朝鮮財源調查狀況に付き質問する處あり荒井長官財源調查は韓國時代より引續き調查を進めつゝありとて詳細なる說明ありて二時半散會せり（東京特電）

政府對上院形勢緩和
政府の聲明を求めて一段落乎
解決迄には多少の曲折あらん

貴族院對政府の兵器賣却問題に關する葛藤は此程來著しく緩和せられ貴族院側より政府の聲明を求めて一段落とならん模樣あり即ち政府は各派の要求により特に本會議に於て將來再び一般會計と特別會計と混淆紛糾せしむるなき旨を聲明し各派も亦之に滿足し解決を見るならんと豫期せらる但此の解決を見る迄には當路者間に多少の曲折あるべく而して該解決案は大體研究會側の立案なるも各派も今は之に異論を唱ふる事なかるべし（東京特電）

羅馬法王特使來朝期

羅馬法王廳に於ては今回我天皇陛下御即位に對する賀表捧呈の爲め特にキウセッペ、ペトレリー僧正を派し來朝せしむる旨通牒ありたるが同特使は二十四日香港着直ちに上海に向ひ二十七日長崎著越えて來月一日朝神戶上陸二日入京すべく特使接待に付ては今に決定を見ざるも勿論國賓として鄭重の御待遇あることなるべしと（東京特電）

袁總統の帝政延期命令

二十四日袁總統は大典籌備處に命令して曰く目下雲南亂を作す是れ余が不德の致す處なり猶一般の人を滿足せしめ得ざるは慚愧に堪へず此際即位式を擧ぐるは心安からず況や軍費支出增加の際なるが故に雲南亂平定の後即位期日を定むべし國體は既に決し余は國民の推戴を承諾したれば大局は確定し居れり唯即位式擧行期日聯か後るゝも何の妨かあらん（北京特電）

日本の決心を傳ふ

日置公使は二十五日午後外交部を訪問し支那の帝政延期通告は了解せる旨を告げ猶日本の之に關する決心の存するところを傳へたり（北京特電）

獨領事雲南獨立承認

雲南駐在獨逸領事は獨立軍に對し之を承認し且獨逸は中立を守ると通告せりと報ぜり（北京特電）

帝政延期前の間島

支那帝政問題に就ては表面何等の[illegible]袁家の私事の如く看做され居れり聞く所に依れば支那官憲にては近來豆[illegible]局に對しては宛然支那以外の別天地[illegible]小[illegible]ある外何等特種の事件無く時の[illegible]の暴威稍々間島より遠かれるの觀あ[illegible]りしに十六日夜半兒畑突如龍井市の[illegible]因は目下[illegible]の筋にて探究中に屬する[illegible]らるゝし普通學校を[illegible]言個今日に至りて實現せられしの[illegible]み其の同種の人に依りて行はれしか[illegible]し名を教育に藉りて異志を激成せんとするものなるに普通學校は獨り其の間に卓立して正當なる教育の[illegible]あり在留者一同一日も速かに善後策を講じて間島學政に多大の支障を貼[illegible]懷中より水樣の藥を取り出して飲ぎ[illegible]たるより警官は驚きて飲用物を吐か[illegible]

首相へ御下賜品

天皇陛下には二十五日大禮使高等官に御陪食仰せ付られたる後大禮に關し首相の功勞を思召され大隈首相を御前に召され種々優渥なる御諚を賜はり左の御下賜品ありたり（東京特電）

一、御紋章附蒔文臺　一箇

大禮關係者御陪食

廿六日正午宮中にて午餐會を催ふさせられ慰勞の御意を以て大禮關係者一同に御陪食仰付けられたり（東京電報）

樞密顧問官後任

樞密顧問官北垣國道男薨去に付補缺として二十六日宮中に於て左の如く親任式を行はせられたり（東京特電）

正三位勳一等　法學博士男爵　穗積陳重
任樞密顧問官

對上院策閣議

二十六日午前九時半院內にて閣議を開き對上院策に就き鳩首凝議する處ありたりと（東京特電）

登極令違反質問

政友會にては登極令違反に關する質問書を二十六日衆議院に提出せりその趣旨は過半御即位式當時賢所御神樂の儀に大隈首相供奉せずして岡陸相首相代理として供奉したるは登極令に反するものにして首相病氣その他已むを得ざる事故ある時は臨時總理大臣の任命を奏請すべきものなりといふにあり（東京特電）

大浦氏の病氣

政界を隱遁せる大浦兼武氏は鎌倉の別莊に病臥靜養中なり（東京電報）

河合氏有罪確定
次點中野貫一氏

新潟縣選出同志會所屬代議士河合直次氏の選擧法違反事件は曩に東京控訴院に於て禁錮三箇月に處せられ上告中の所二十六日上告棄却の言渡ありたり次點者は中野貫一氏なり（東京特電）

大船渠開渠式

明治四十四年十月橫須賀海軍工廠內にて起工し足掛六年を費し今回愈々竣工したる東洋第一の大船渠第五船渠は二十六日盛大なる開渠式を擧行せり（東京特電）

奉天航空演習

我が航空隊は來る二月十一日より奉天にて飛行演習を爲す可しと（奉天電報）

太公殿下吳に向はせらる

露國太公殿下には二十六日京都御觀覽市中の商店にて種々御買物あり午後十一時二十分大阪御通過吳に向はせられたり一行中のアギリマン氏は高島屋に命じM、Hを紋所とせる羽二重紋付を調製せしめたり（大阪特電）

黃興上海へ著す

米國より歸れる黃興は上海に上陸せるが革命黨內訌の虞あるを以て極力同志の結束中なり（上海電報）

雜報

商議設立狀況
全部設立は來月中旬か

新商業會議所令に伴ひ既に其筋の認可を經て設立を見たるは京城及び仁川の二箇所なるが之れに次ぎ大邱商業會議所も亦認可を申請し過般來總督府に於て銓議中なれば近く總督の決裁を得て認可を見るに至る可く豫て設立準備を急ぎつゝありし平壤、鎭南浦の二商業會議所は既に平安南道廳の調查を終り二十五日夜總督府に廻付し來れる由なるが元山商業會議所は目下當該道廳に於て定款其他設立形式に關し審查中なれば總督府に廻付し來るは此處兩三日中なる可く、其他の地方に於ては何れも目下頻りに定款の作製其他設立準備に關し多忙を極めつゝあれば遲くとも三月上旬迄には全部の出揃を見る可く斯くて順次總督の決裁を經て全く全道商業會議所の設立を見るに至るは來月中旬なる可きか

藥品益々暴騰

屢々報道せる如く歐洲戰亂勃發以來藥品暴騰し彼の解熱劑として用途最も廣きアスピリンの如き平時一磅一圓二十錢位を標準とし居りしもの昨今三十三四圓を唱へ約三十倍の昂騰を示し總て解熱劑は目醒ましき奔騰をなし居れるが驅梅藥六百六號『ネオ、サルバルサン五號』は戰前五六圓なりしもの三十二三圓の時價を保ち居れり又消毒用のホルマリンは大壺三十基入一磅三十錢見當のもの八十錢を唱ふるに至り石炭酸は益々品薄となり一磅七圓五十錢の高價を唱へ居れるが其外諸藥品は價格益々昂上するのみにて此上如何なる程度迄騰貴するや知る可らず聞く所に依れば現今藥品在荷狀態は市場の中心に於て稀薄若くは拂底の爲め山間僻地の小藥店に散在せるものを逆買して需給の調節を圖りつゝあるやの狀態なりと

慶北製紙發展
前途甚だ有望也

慶北の製紙業は頗る有望なるにも拘らず從來閑却されたる傾きあるも最近の調查によれば製紙原料の搭產額一昨年約二十三萬貫に對し昨年は五十萬貫以上に達し是が製紙額一昨年約十五萬圓に對し昨年は二十五萬圓以上に達し前途頗る囑望すべきものあり就中慶北道內產額の多きは慶州十五萬圓慶山一萬二千圓其他盈德、金泉、迎日地方にして管內製紙原料の產出せざるは達城、大邱、善山の三郡のみ其他の二十一郡は多少に拘らず產出しつゝあり而して慶州、盈德、慶山の如きは優良なる白紙の產地にして販路又頗る廣く支那地方へ輸出するもの丶みにても十萬圓を下らざる可く目下價格一塊八圓內外にして好調を示し窓紙見樣紙一塊は三十五六圓なり要するに慶北製紙業は是を一昨年に比するに多大の進步發達を示し輸移出先の擴張と共に將來發展の餘地甚多きを以て當局は極力是が改善を圖る方針なりと

西鮮の鯛漁

▲延繩漁業　西鮮の鯛漁は黃海道松禾郡椒山島附近より同長淵郡夢金浦沖合に至る一帶の沿海及び平安南道龍岡郡南浦沖合より大同江口德島附近に至る一帶の沿海に行はれ初期は概して黃海道方面にして盛漁期より終了期迄は平安南道沖合に盛んなりとす漁期は例年五月中旬より六月下旬迄を初期とし七月上旬より九月下旬迄を盛漁期とし九月中旬より十月下旬迄を終期とす從漁船內地の愛媛九隻山口二隻大分四隻、計十五隻にして近時近海漁業の發達と共に黃海道方面の鮮人の從事するもの十四隻を算し多く鎭南浦を根據として一箇年平均三四回の出漁をなせり昨年は春に解氷期遲れたれば五月中旬に至り漸く開始されたれども其後の天候順調にして出漁日數は大正三年に比し大差無く漁獲高は總量五千四百八十貫價格七千三百二十七圓一隻の最大漁獲高六百卅圓最少百三十二圓平均一隻二百五十三圓に達したり

▲一本釣漁業　一本釣の漁場及び漁期は前と同樣なり而して從業漁船は昨年は例年より減じて僅かに熊本五隻山口一隻大分三隻計九隻に過ぎず漁獲高は二千三百四十六貫價額二千九百二十圓一隻の最大漁獲高は四百十四圓にして最少百七十四圓平均三百十四圓なり漁獲物の處理は鎭南浦に入津販賣する者多し

群山繩叺組合
組合規定の收容

群山米穀檢查所と相呼應し米穀の包裝繩叺檢查を施行し斯業の發達製品の改良を圖る目的を以て群山米穀商及び當業者の計畫に係る群山繩叺販買組合は事業開始準備として二十二日午後二時より府廳樓上に於て組合總會を開催し豫算事項役員選擧等を附議決定し組合長として森狗五郎氏副組合長として松本市五郎氏を推し評議員として橫山與市、半田徹一、布井嘉造、岩田宇之助、金洪斗氏等を選擧し散會したり同組合規定の概要左の如し（群山）

一、組合員の購買せる繩叺は規定に依り檢查し米穀以外に使用するものは此限りにあらず
二、檢查料は繩叺一束に付二錢とす
三、檢查方法は規定寸法繩方綴方原料の良否に付き檢查を行ふ
四、檢查標準は叺は重量七百匁以上寸法橫三尺縱二尺六寸綴繩四十四節以上[illegible]繩は重量一束十一貫以上乾燥充分にして變色せざるもの、寸法完全なるもの
五、組合員にして繩叺の檢查を拒避する者は[illegible]の違約金を徵す

帝國軍人後援會

大隈伯爵を會長とせる帝國軍人後援會は其筋の認可を得て朝鮮に支部を設置し既に支會總長以下職員全部の囑託を了し各道に於ても既に事務所を開き會員募集に著手中なるが來る三月下旬頃京城に於て盛大なる發會式を擧行すべしと

慶北井戶穿掘

慶北道管內郡部にては移住民の增加に伴ひ井水の不足を告げ居れるが今回二十三郡中十四郡一島又は地方費の補助を以て新たに十八個所の井戶を穿掘することに決定し已に著手せしもの六個所他は目下共に準備中にて經費は一個所約百圓の豫定なりと

兩將軍釜山行

井口軍司令官、立花警務總長は二十八日午後七時五十分發列車にて南大門發釜山へ赴き二十九日夜歸任の豫定なり

大屋長官釜山行

大屋鐵道局長官は二十七日午後七時五十分南大門發釜山に赴き二十九日夜歸任の豫定なり

石油露國輸出

內地石油の原油は近來露國に對して輸出しつゝありしが今回更に寶田日本兩石油會社は同國へ各二十萬函宛合計四十萬函の輸出をなすことゝなりしがため目下北越地方に於ける原油は著しく減量を示し模樣なるが輸出の主因は露國在來の製油工場は戰亂のため國內原油の採取不如意の結果として自然本邦に向ひ之が代用品の供給を促し來りたるに依れるものにて將來も又引續き多量の輸出あるべく勞々一般斯界は外油の暴騰と共に未曾有の活躍を見るに至りたりと（大阪）

夾金鑛と排日策

吉林採金局は日支新條約に於て日本の利權に歸したる夾皮溝の調查を開始中なるが近く何等かの形式を以て日本抵制策を講ずるなる可しと（吉長）

黎副總統近狀

副總統黎元洪氏は國體問題發生以來其態度極めて沈寂未だ贊成の一語を口にせず況んや袁總統の封する親王に對しては始終固辭して殆ど默服と同視せり日に辭表を提出すること七八回毎に中間に握潰されて袁總統の手に落ちず袁總統も亦婉曲に黎副總統の意を迎へて強迫がましきことなし特に其子袁克定氏に旨を含めて二三武僚を通じて頻に其受任を懇請せしめしも黎副總統の決意泰山の如く動くものにあらず度々武僚の來りて懇請するを五月蠅とて遂に門を閉ぢて接見せずと黎公の歸心矢の如きも袁總統は到底其離京を肯せざるべし何となれば一旦黎公出京せば天下に號召し人心動搖して帝政の前途に大障碍あればなり故に某要路者の密囑して黎公の今暫く留京するを婉求し一ただ正式の登極を俟ちて始めて出京を許す算段なりと（北京）

報恩沃川間道路竣工
（忠北沃川報）

報恩沃川間約七里餘の三等道路は去る大正二年九月に著手し昨年三月迄に凡八步通り竣工し只僅かに錦江々岸の難工事のみ經費の都合にて一時中止の儘なりしが斯くては一般の不便尠からずとて本郡廳と憲兵分隊とが熱心奔走の結果終に道費二千數百圓を投じ巖石堀削工事を當地淵上組に請負はしめ工事を急ぎたる結果愈々昨年十二月中全部竣工を告げ本年に入り既に人車、荷馬車の通行を見るに至りたれば茲に報沃兩郡民多年の宿望を滿足せしめたると共に今後兩郡間の交通上一新生面を開くに至るべく去れば本道路竣工に盡力せられたる諸氏の勞を慰むると共に近々盛大なる竣工式を行ふべく目下協議中なり（沃川）

金鑛官營案
（黑龍江）

黑龍江省の金鑛は各省中最も著名なる者にて北京政府は前に之れを官辦として其發達を圖らんとせしも同省民は其利潤を喪はんことを畏れ再三政府に嘆願したる結果政府は其願意を諒とし舊の如く之を民營とし官憲に於て監督することゝして一段落を告げたるが近頃モリソン氏は之れを以て國家の利源開發上の大損失となし詳細なる政府意見案を呈出し目下財政部に於て研究中なりと（奉天）

人事消息

▲西崎鶴太郎氏（鎭南浦釀業家）二十六日夜入京浦尾旅館へ投宿
▲水谷千萬吉氏（平壤鑛業所長）二十七日朝入京浦尾旅館投宿の筈
▲三田善彥氏（咸鏡北道第一部長）二十六日夜入京不知火旅館へ
▲エステル氏（英國實業家）二十六日夜入京朝鮮ホテルへ
▲ミンフード氏（米國鑛山業）同上
▲セフコート氏（英國鑛山業）同上

優等清酒

釀造元　福岡縣三井郡山川村　富安本店
發賣元　京城永樂町二丁目　富安京城支店　電話一〇三九番　振替口座四三九番

株式失權公告

[illegible]

右は當會社資本減少株式併合の爲めに株券の提供を催告したるも期間內に提供をなさず又提供をなしたるも併合に適せさるに因り株主たる權利を失ひたり此段公告候也

大正五年一月廿五日

朝鮮勸農株式會社

…が宇內と惡風を放ち居り中華帝國洪憲元年等の稱呼は未だ殆ど一般の試みる所とならず國體の變更も全く

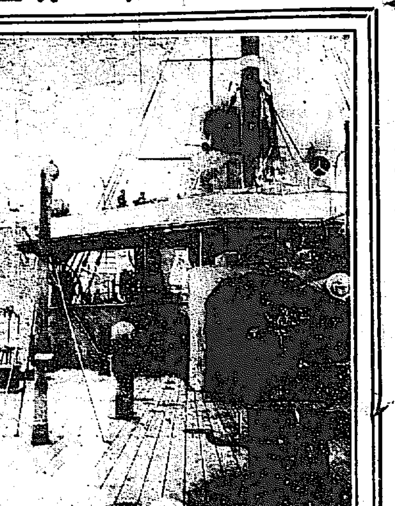
…も未だ其の種の人物入島せる形跡無く間島は依然として時々日支警官の…る由…

間島…の大火

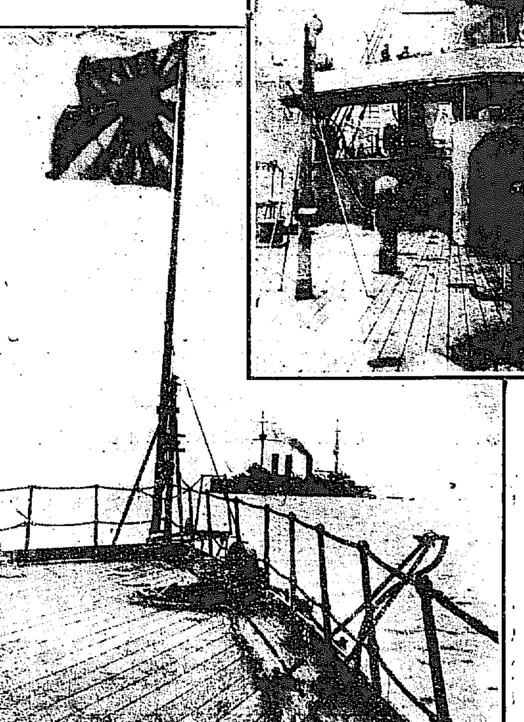
豫て謠言の放火か

去る明治四十四年の大火已後祝融氏…午前二時に至りて漸く鎭火せり、損害額は建物約一萬三千圓、器具圖書等約七千圓なりといふ出火の原…して放火ならんには、…り暴徒選擧の風評有る毎に屢々傳へ…居れり若…本間島には鮮人教育の學校、支那官立及び鮮人の私立を合して八十餘校を算するも其の多くは排日系統に屬して其の無形の…一般の在住者をして歸趨を悟らしめたる間島…一の學舫なりしことに於て頗る多大なるもの…

…也（三）は二十三日午前三時頃新町飲食店石田方にて本町署の警官が說諭したるに潛居したる風を裝ひ微かに…たるものを飲用したるにて右は全ア狂言自殺と判り生命に別條なしと



旗艦磐手の砲塔



旗艦より吾妻艦を眺む

●浮城の如き「磐手吾妻」

希望に輝やける候補生！

剛毅沈着の松村司令長官

既報の如く練習艦磐手、吾妻の兩艦は二十六日午後一時十分仁川に入港せり之れより先き仁川官民の重なるものは何れも出迎への爲め稅關埠頭にいたるや二條の微かなる黑線水平線に現はるゝかと見る間に旗艦磐手を先頭に吾妻之れにつゞき二隻の艦艇は軍艦旗を檣頭高く翻へし威風堂々波濤を蹴つて入港約二哩を隔つる沖合に磐手吾妻の順序にて西南に向へ投錨せり

松村少將を訪ふ　快濶なる參謀

同時に仁川警察署のランチは壬生港務醫官其他の檢疫員搭乘し檢疫に向ひ記者は武間港吏の搭乘せる第一宮丸に便乘を乞ひ旗艦磐手に司令官松村少將を訪ひ敬意を表す司令官は宏壯なる艦の室に稍白髮交りの頭髮を行儀よく分け悠然アームチエアーに倚て煙草の煙を燻らしつゝ記者を引見す對談少時更に記者は參謀左近司中佐を訪ふ溫厚にして如才なき中佐は溢るゝが如き愛嬌を以て來訪の好意を謝し快く談ず室に佐藤參謀大尉と司令部高橋中尉とあり記者の問ひに對して斯く語る

舊臘江田島拔錨　邦人の發展振り

『昨年押し詰つた十二月十六日に江田島海軍兵學校の卒業式を終へ即日九十五名の卒業生に對し候補生を任命し候補生は磐手に四十七名吾妻に四十八名分乘し即日江田島を拔錨したそれから有明灣から佐世保に向ひ同地にて大正五年の春を迎へ青島に航行し同地に上陸して日獨戰爭の戰蹟を視同地より旅順に出で日露の役の戰蹟を見學し大連の狀況を視察して邦人の偉大なる發展振りを覩て內心非常に嬉しく思ふた二十四日同地を辭して本日仁川に入港したが大連では二日許り非常に激寒に出會ふたが仁川附近の暖さには一驚を喫した之で滿鮮の寒さも味ふた譯だと呵々大笑せらるゝ

兩日は京城見學　松村少將の經歷

二十八二十九日の兩日は京城へ向ひ京龍方面の諸種の見學を爲す筈である三十一日には此地に別れを告げて同日午前八時半頃拔錨し鎭海灣に向ふ筈であるが途中では引續き諸種の海上作業や艦內の作業を行ひ鎭海に歸著した上三月下旬橫須賀に入港し同地で更に遠航の準備を終て四月下旬遠洋航海の途に上る豫定であるが其方面は未定である次に司令官松村少將は堤くも先帝陛下御在世の砌侍從武官として奉侍し後英國大使館附武官として永く同地に駐在し外人間に於ても名聲嘖々たるものがあり其後教育本部に於ける樞要の椅子を占め日露戰役には旗艦三笠の副長として東鄕司令官の麾下に屬し帷幄に參與した而して永劫世人の忘るべからざる東鄕元帥より發せられた『皇國の興亡此一戰にあり諸員それ努力せよ』との旗艦よりの信號命令が無線電信によつて出た時は松村司令官も同艦に搭乘して居られたのである

衛生は至極良好　兩艦現在乘組員

航海中の衛生狀態は至極良好で其設備が遺憾なく行き屆き此冐を削るが如き異鄕の寒さにも屈せず艦內の勤務演習等に參加し九十五名の候補生の中で一名病氣に罹り大連から內地へ歸還した許りで艦內の狀態は全く行屆いて居る又現在の乘組員は旗艦磐手には松村司令官以下准士官以上五十二名下士卒六百六十五名吾妻には准士官以上五十二名下士卒六百四十九名乘組んで居る其の中に伊集院海軍大將の息松治氏柴山海軍大將の息直彌氏其他吉見海軍少將の息信一氏及び大木海軍少將の息田原吉興氏等が何れも候補生として乘組み他の候補生と共に勤務や演習に從事して居る

旗艦磐手の歷史　戰死將士の寫眞

は去る三十三年英國にて建造せられた裝甲巡洋艦で日露の役に從軍し近くは青島の攻擊に參加し搭連島を打ち破り同年十一月十四日には南洋に策動した幾多の歷史を有し司令官室の廊下には日露役の海戰に露軍より發射した砲彈にて蜂の巣の樣になつた鐵板や名譽の戰死を遂げた幾多將士の寫眞が恭しく揭げられてある記者は往時の戰役を追懷し思はず脫帽して敬意を拂ふた記者が司令官や參謀將校に告別して甲板に上ると久水府尹、櫻井稅關長等の諸氏が訪問に來た（仁川支局）

●純金の鶴、嘴は白金

金塊二億五千萬留の輸送

廿六日浦鹽より門司に入港せる鄭船小倉丸の齎らすところに據れば過般軍艦千歲と常磐兩艦に依り輸送されし金塊は二億五千萬ルーブル及び銀塊若干なり右は猶同艦にて御即位祝賀の爲め露國皇帝より我帝室に贈らるべき鶴は體は純金嘴は白金の頗る立派なるものなりし由（門司特電）

●京城には老孃が何故多いか

研究す可き問題＝故鄕戀しの心理

戰亂以前に於ても巴里は老孃の本場だと云はれて居つた彼等の多くは自己の智識の爲め、理想の徒らに高き爲め、生活の壓迫の爲め、或は虛榮の爲め放縱なる生活を欲する爲めに結婚を忌避し或は外界の壓迫の爲め婚嫁する事を得ず

惜可人生の花期を過し陰花植物の如

うな單性な生活を送るに至るのであるが戰亂以後は更に此の老孃の數が非常に增加した事であらう、老孃なる語が如何に娘を持つ親の耳に興醒めの響を與へる事であらう處が京城には此の餘り感心の能きない老孃の數が人口の割合に甚だ多いとの事である京城の老孃は上流の家庭には比較的少い爲め從來餘り世間の注意を喚起しなかつたが近來

上流の家庭にもボツ〳〵可愛い花嫁

盛りを過ぎたお孃樣が見受けられる樣になつた何故京城にはオールドミスが多いか尠くとも之れは研究に値する興味ある問題ではあるまいか之れに就て多年女子教育に從つて居た某教育家の談に由れば現在京城に居住して居る內地人の男女數は昨年末現在男が三萬四百七十二人女が二萬八千六百三人といふ比例で此の比例と男女の出產率及び生命長短及び男女死亡率等から考へると今後數年ならずして女の方が多くならぬとも云へぬ程である處が京城に於ける結婚を見ると其の內の七分までは

京城の男が內地の女と結婚して居る

此の現象は各階級を通じて悉くさうである特別の事情の無い限り求婚の男子は內地の女子と結婚したいと望んで居る殊に男子の親即ち舅姑となるべき人は鄕土に對する深い憧憬が一種の根本的原因となつて是非內地から息子の嫁を貰ひ度いと希望つて居る又多くの場合男子は內地の女子と結婚すべき諸種の情實が纏綿して居る樣である此の現象は上流の家庭になれば成る程著しい模樣である而して妻を迎ふる若い男が京城の女を如何に見て居るかと云へば一概には云へないが多くは氣風の惡い人情の輕薄な虛榮な無教育な貞操の疑はしい娘のやうにしか見えない

之れは實に從來の歷史的偏見であつ

て近來の京城の娘は決して從來の女と同樣ではない少くとも內地の各階級の娘に比して各階級共優れて居つても劣つては居らないのである然るに何んとなく不安な樣な京城の娘よりも遠目で見て美しく見える內地の娘を迎ふる方が萬事に於て好都合に思はれるのである

●大錦橫綱

師日山より司家へ

二十六日大阪相撲協會役員會にて大關大錦を橫綱に推薦の議滿場一致にて可決し同連名の推薦狀を取纏め日出山に提出し熊本吉田司家に許可を申請する筈なり（大阪特電）

●南洋土人漸く日本化す

サーベルの威力

最近南洋新領土東西カロリン及びマーシャル群島を視察して歸れる某氏語つて曰く新領土の土人を大別すればカナカ種族とチャモロ種族の二つあるが何れも各群島に散在雜居して居る併しカナカは純土人で

▲全く裸體である　只だ僅かに其一部の者が四角な布の眞ん中に穴を穿ち之を頭からスポリと被つて居る位である家屋と云つては椰子の木を柱とし其葉を葺いて一寸見れば日本の田舍によく見る竹の柱に茅の屋根ツてな非人小屋の樣だが其生活狀態は原始時代を髣髴させる、チャモロ族は其數少きも

▲却々ハイカラで　ある彼等は西班牙領時代から外人の感化教育を受け獨逸領になつても十二三年間支配された間に此チャモロはいくらか腦髓が優れて居たと見えて智識も發達し其家屋は南洋式のトタン葺で床の高さが三四尺頗る涼しい又天水を取る爲めに大きなタンクを備へて居る而してメリヤスを著て居る此の二種族は一見して差別する事ができるのであるカナカは五以上の數を算へる事ができない優れた奴で

▲十が精々である　一心に教へ込んでも百まで數へ得るのは先づ無いと云つてよい此種族は教育しても一二代の間で百の數を算へる樣になる事はむづかしいチャモロは稍多く算へ得るが是れとて頗る單純である、而して是れ等總ての土人には本來の土語があつたか知らぬが現在彼等の使用して居る言語は土語と西班牙語米語獨逸語のチャンポンされたものである器物の名稱には

▲純粹の西班牙語　や米國語又は獨逸語を其儘使用して居るのが多い之は元長い間西班牙の領土であつた爲と其後獨逸領にもなつたので是等の外人が數へ込んだからである又米國の宣教師も澤山宣教に來たので言語が雜つて居るのである昨年日本が占領して以來私共は熱心に土人の

▲日本化に努力し　て居る家屋の建築材料なども最も低廉に供給し又諸器具も獨逸品を排斥して日本品を用ゐさせる樣にして居るが最初は持つて行つた品物が半分も賣れず大に困つた併し今日では食鍋は全く日本鍋を用ひ是迄手づかみに食して居た奴が

▲二本箸を無格搆　な風をしながら使つて居る物品の名稱は日本語を其儘用ゐさせて居るが獨逸をやつつけたといふので日本人を非常に提敬して居るから今の所では駿々として日本化する事が出來る併し元來心服して居るのではない彼等土人は

▲全くサーベル（劍）に恐れ之に服して居るのであつて獨逸領時代には及物としては只だ椰子の實を切るに用ふる小さな庖丁樣のものを與へて居たのみで武器と云ふものは更に持たせなかつたのであるだから日本が南洋を占領した當時彼等土人は獨逸商店に逆襲して盛んに掠奪したが日本兵が上陸し又時々日本軍艦が其影を見せるので手出しをせず服して居る若し他日日本兵が去り軍艦が來なくなつたら或は日本商店に掠奪を試むるかも知れない

京城奇人傳

（3）端書を見て泣き出す

漢學の素養が無いから駄目でがす

仁川稅關の原茂氏と云へば朝鮮に古くから居る人で知らぬ人は先づ少い、君は今年六十歲許りの老翁に見えるけれ共、明治二十一年長崎稅關から轉任して以來約三十年の後半生を朝鮮で暮したものである。それで朴泳孝侯爵、趙重應子爵などの朝鮮貴族を始め昔しからの交遊は甚だ廣いとの事であるが前鎭南浦稅關長をやめて以來今では龍山の令息の家に起臥して居る、鄕里長崎の廣運舘では伊東巳代治子と同窓だつたと云ふことでござる、

君は餘りに狷介な爲めに立身の機會を取り脫したものだ相な、若い時分から仁川稅關で外人に接觸した爲めか君は實に語學に於ける天才であつて就中英文などは本國人よりも巧いといふ、面白いことには君が飜譯などを始める時は同時に左右兩手に筆を持ち右の手では邦文をかき左手で英文をかくとである、其の他割烹に就いては君は却々の玄人で御機嫌のよい時分には何時でも長崎名物のお雜羹を振舞ふ、而も料理は三日前から豫告が無くては出來ないといふのも面白い、君はまた日露戰爭當時仁川上陸の出征軍人を犒つたのは非常なもので當時其の熱誠な大歡迎を受けた軍人は非常に多く今に至るまで老翁の誠意を德として方々から通信して來るので君は其度每に數百に餘る端書を取り出しては感慨に堪へず泣き出す相な『昨今の人間は漢籍の素養が無いから駄目でがす、英文の飜譯にも漢文をやらぬ人のは骨がごわつせん』とは君の每時の氣焔ださうな

◉鷄泥棒　住所不定朱福童（三五）と云ふは二十一日午前五時頃始興郡下北面の安藤某方にて鷄三羽（八圓）を竊取し京城府麻浦に持來りて賣却せんとする所を龍山元町派遣所の手に取押へられたるが同人は前日京城本町署に於て竊盜により笞九十の刑を受け俳徊しつゝ旅稼ぎをなしたるものなりと

◉中券藝妓表彰　中券事務所にては旣報の如く二十六日午後一時より同券藝妓の新年宴會を大正館に開催したり先づ開會に先ち同券取締の挨拶あり券番に功勞ありたる清華、三太、金五郎、花川その、若一、加代、大江戸たかの六名に賞品を贈り續いて昨年中の成績優良なりし花月玉龍、大江戸いろは、花月秀奴の三名に對し賞品を授與しそれより來賓を代表して大垣丈夫氏の挨拶あり後活動寫眞の餘興に移り一同歡を盡し終りに舘主より餅花の寄贈あり四時散會したり

◉仁川俱樂部新年會　仁川俱樂部にては廿六日午後七時より仁川ホテルに於て例會を兼ね新年宴會を催せり

▲講談千生瓢本日休載

朝鮮總督府

鐵製外科器械外武種

右購買ス詳細ハ一月二十七日以後ノ朝鮮總督府官報ヲ見ヨ

朝鮮總督府

物品購買公告

一、繃帶入袋　壹千八百個

此入札保證金各自入札金高ノ百分ノ五以上

右購買ス希望ノ者ハ本府廳務係ニ就キ入札心得書、契約書案、見本等熟覽ノ上一月二十七日午後二時限リ本府廳務係ニ入札スヘシ即時開札ス

此契約ハ朝鮮總督府府尹金谷充擔當ス

大正五年一月二十四日

京城府

大正四年下半期（第四十五期）決算報告

貯蓄預金

一金參百貳拾九萬貳千五拾五圓八拾壹錢六厘　前期繰越高

一金五百四拾六萬七千六百圓六拾錢參厘　當期預り高

合計金八百七拾五萬九千六百五拾圓四拾五錢九厘

一金五百參拾萬九千百四拾貳圓七拾七錢八厘　當期拂戾高

差引殘金參百四拾五萬五百拾參圓六拾八錢壹厘　現在預り高

右預金人員八萬八千九百九拾四人

右貯蓄預金ニ對シ拂戾保證トシテ左ノ有價證券ヲ長崎本金庫ニ供託シアリ

諸公債擔保證券金額　[illegible]

諸株券　[illegible]

諸會社債券　[illegible]

合計　[illegible]

貸借對照表

資產之部	金額
貸付金	[illegible]
預ケ金	[illegible]
公債證券	[illegible]
諸會社債券	[illegible]
諸株券	[illegible]
代理店勘定	[illegible]
營業用地所建物	[illegible]
金銀有高	[illegible]
合計	[illegible]

負債之部	金額
貯蓄預金	[illegible]
定期預金	[illegible]
當座預金	[illegible]
資本金	[illegible]
積立金	[illegible]
當期純益金	[illegible]
前期繰越金	[illegible]
合計	[illegible]

利益金處分

內	金額
當期純益金	[illegible]
前期繰越金	[illegible]
合計	[illegible]
積立金	[illegible]
賞與金	[illegible]
配當金（年八分）	[illegible]
後期繰越金	[illegible]
合計	[illegible]

右之通候也

大正四年十二月

長崎市築町百七番戶第壹號

株式會社長崎貯蓄銀行

副頭取　永見寬二

取締役　松田英三

一時取締役ノ職務ヲ行フ監查役　高見和平

支配人　野口孝太郎

前記ノ各項調查ヲ遂ゲ其正確ナルヲ保證候也

監查役　山田又三郎

取締役補缺選擧ニ高見和平當選シ取締役互撰ノ結果左ノ通就任致候

頭取　高見和平

副頭取　松田英三

取締役　永見寬二

代理店　京城黃金町二丁目　十八銀行支店

同　京城元町二丁目　龍山出張所

物品拂下廣告

第壹號　ホーヅキ型其他

第貳號　化粧品類

第參號　掛時計

第四號　油繪及額緣

第五號　三味線、袋（天袋）

第六號　油及人造麝香

第七號　帽子

第八號　染草

右來ル壹月二十八日午後一時稅關出張所ニ於テ入札賣却ス

大正五年壹月拾參日

仁川稅關

滿蒙處分論

故陸軍大將クロパトキン將軍原著　日本大井包高譯述

定價金一圓　郵稅本社負擔

京城日報代理部　振替貯金京城三〇〇

朝鮮總督府中樞院顧問從三位勳三等子爵高永喜儀永々病氣之處本月二十五日午後十一時半薨去致候に付此段謹告仕候

追而葬儀は二月一日午前九時自宅出柩同日午前十一時西大門外獨立門前に於て葬式相營み同二日午前十一時下棺同二日午後四時三十分西大門外獨立門前に於て返虞致候

大正五年一月二十六日

長男　義敬

三男　義正

伯兄　永周

親戚總代　伯爵　李完用

子爵　朴齋純

子爵　趙重應

子爵　李容植

子爵　閔丙奭

友人總代　石塚英藏

荒井賢太郎

國分三亥

國分象太郎

小松綠

葬具萬般整頓罷在り斯業に經驗深き者專ら業に當り如何なる御儀式にも決して差間無之候

京城大和町一丁目（總監部通）

大和葬儀舍

電話二四三八番

電話一五六七番

旭町二丁目（名古屋城下）

株式會社**京城葬儀社**

本社は支店出張所等無之に付御用の節は直接御用命願上候

靈柩馬車の設備有之候

中河原重吉

井上芳太郎

電話九五七番

福の神の行方はいづこ？

名譽金牌受領記念景品附賣出當選番號

江湖諸彦の多大なる御同情の下に無事執行仕り候弊商會煙草景品當選番號下記之通りに御座候

▲特等（二本）

大に二一四一
元い四五五七

▲壹等（一七本）

▲京城の部
ろかいた
五二二二
四九八○
八五八六
九七四八

▲平壌の部
わるへこに
五三一一一
一五四五二
四九九七○
三七二三八

▲元山の部
いに
九四
九八
三五
三一

▲釜山の部
ちりぬに
四三三二
九五四六
七四三四
四三○九

▲大田の部
には
九四
九○
九五
六四

▲貳等（五○本）

▲京城の部
をぞわるたいにほよろ
九九八七四四二一一一
二○三三六三六八六二
九七四二三四八○三二
二三五一五二八四六七

▲平壌の部
よにこそにかれわそそころるしをろ
七五五五五五三三三三三二一一
一七六五一○七七三三三三九八二
三二六九九七四四七五三八五九八五
九三六二一八六一九九八七九八二五

わわろを
九九九八
九四四○
一七五五
七四七○

▲釜山の部
いぬこりぬぬちこちこ
九八七七六六六五一一
九五六三九八五二六○
四○○九三四九○五五
七一一一二二二○九一

▲元山の部
ろいにはほ
九五四一一
三四一六○
三七九六五
七一一一三

▲大田の部
ほほへここ
八六四三二
三七二三四
○七五四二
八七八六九

▲參等（四○○本）

▲京城の部
ねとかれにるぬかわよほりはいいいりりいちぬをほいれろちそれわろよぬちれ
三三三三三三三二二二二二一一一一一一一一一一
八四四三二一一九七六五一九九八七五四四二二二一九八六六五四四四四二一
四八六四八七四五三四五四八○四四七四一九八七○三三七五九七五四四一九六
一四○七八七六一四八九二六二六九五○八六五六一九一八九三九○六○九七九

れいをわりりいにかにるにるをにほをにりはほわはちほよそほるよをとりれわか
七六六六六六六五五五五五五五五五五五五五五五五四四四四四四四四四四四
二九九七四二二一九八七七七七六六三三三二二二一○○九七七六五四四一一○○
四九五二一五三三九七九五三○八三八二一八四二八四二八八七二一八七三○五○
○八二七七四九九○二七五九八一九一六三一三三一○七六一八四二六○六二二九

そろとにかるいよとるわちにかるほろたをよりわにわるろとわれるほをかるれれるるろろへりをるとわよよとそるたよよとそとろかるわるろろちをとかかたぬされよ
五五五五五五五五五五四四四四四四四四四四四四四四三三三三三三三三三三三二二二二二二二二一一一一一一一一一一一一一一一
九七七四三三二二一○六六六三三三三二二二二一○○○九九八七四四二二二一○九九八七七七六五三二九九八七七六五五四四四二○○○八八七七七六五五四三一一
六八二○二○七六八○九四○九六三○七七四○八八五六一四九八三九五○○五六六一九五二四三三四七六四四一九八六八二一二八六○六五九七三七九二二八七四八八
二七四五六四七七三三一八八一四三五五三九六九四○九四五六二○八四四二九五二六七六七二七四七八九七一○四六○三○三一四二一○○四四六九四八一四四五六六

▲平壌の部
るそたほをそるにわほたはとわはたとろろりをちちぬろにわりい
九九九九九九九九八八八八八八八八八八八七七七七七七七七七七
九四四三三一一○九九八七七六六六五三二一九八八六四四四三三
九三二六一六○二九八五七五五○○一九三三三六五九八七○七五
○二三二六三一九九七一四三三六三二九八四九五○四一八六二五

りちにとりほほほにちほほぬりりとりぬちぬりぬとりいぬいりぬぬりほぬりりりとほにほにちちぬほりほちりとにほとりいぬり
五五五四四四四四四四四四四四三三三三三三三三三三二二二二二二二二二二一一一一一一一一一一一一一一
四一○九九八七七五五三二○○九七七五五四四三三一九九九五四四四三八七七七六六四三三二○七七六五五四三三三
一二四三三二六一九五二八九六八六四七一六五三三七五三○二九六○四一四四○九四四七六二五七三九四七六三五
七四三九三三五二一二二○七四七○九九二○四五一一二七九九九六五八一二一三二七一八六八八一一六四六二○○

▲釜山の部
いとわるよぬににちるるかかかかれわほろをとるよるよにほとよをろよとねわにとこぬにるわろとほそ
九九九九九九九八八八八八七七七七七七七七七七七七七七七七六六六六六六六六六六六六六六六五
九六五五三二一七七六五四○九八八八六六六六六四三三二二一一八八七五五四四三三二二二二一一一一○九
九四二○五五○九○八三七七五九七六九八六四三三七○九三七二六○一九四九七八一八一一九八七五七
三○二○二一四六一八四五五九四六二一八三九一四七八五○六二二一七三六六五八○二五一五七一九七

▲四等（七○○本）

▲京城の部
よれわれわれほわわほそにりりはよよとたとよろとかわわちれれれほわりちよぬろに
一一一一一一一一一一一一一一一一一一一
三三二二一○○九八八七五四三三三二二一○○九九八五四四四三三三二二一一
七五四○八七六七六九二一六三二一九四○三三八二九六四四○六四○八四二○八八八
六三三四三一五九五四二八四九九三一三七三二○二二八五二五二二二二一○八五四

▲元山の部
ろいろろほはにろいほはいほにいはいいい
六六六五五五四三三三二二一一一一一
九四四八七三九八五○九一九九二二九七一
五九四○三五六五八二七八四二六四七一二
○五一八二四○九三六四五八六六一一五七

ぬとちぬちちぬとぬいりちいぬりりりぬとこいにほいちにぬほちほほりにぬちにいぬぬぬほにい
九九九九九九九九九九八八八八八八八八七七七七七七七七七七七六六六六六六六五五五五
六五七四四二○○○○九七七四四三四○八七七七五五五三二二一○○九八七七五五五○九六五四
三八八五一四八八四○八六五八一四一六五四三一八八○一三六五九一九四八二一五一三六八七三
一九六五一二四三○三五二五六三八一二七四三一一三○四○四一二三七四九三二二一一一一四六七五

いをほかちそちさいをかりりとぬりはたれぬをかにとほいりほりぬはりぬりはりぬかれ
三三三三三三三三三三三三三三二二二二二二二二二二二二一一一一一一一一一一一一
九八八八七七七六六六六六四四四三三二二二一一○○○○九九七七七六六五五四三
二九八五五二一九六三三一一六六三九九八○六六二一九六三一七四八八○六○五三○七
二八三四五二五四六九一二○八三三六○六一八七三一九五六三九四五三四四○五三○八

▲大田の部
いはほへろにはにいはにはほほはいとこいろはろいはろははいいはにとはとにへははろとははにとはい
九九九九九九八八八七七七七七六六六五五五五五五五五五五四四四四三三三三三二二二二二一一一
八六五三一○九八一七六六三○六三○八七七六五三三○八三三三二一九八七九五二一一六五○九六六
一二二四八五七五三九七○七二三○九○九八四九二一八一九七四一五五一一四一四九九五三二五
三三二○四七六一一六二九三三七○二三一六二六○六八九五九三一八四八八九一五二一六七九三六

にこほれおいほにれれにいにほほわはにくにはりほにほ
九九八八八七七七七七七
八四三一○八七五五○○
六六八五六○八七五四二
九八五五四二二二○九九

いをろろぬろろりぬりれれちわぬぬぬをれよろをれわぬりほとちをなわいぬをかりよわりちちをわるはにそはかれぬれをよりさぬほそにかそとぬかそぬぬをよをほさりにぬぬぬちそはりかははは りちによかかとにいをほはりほわに
八八八八八八八八八八八八八八八八八八八七七七七七七七七七七七七七七七七七七七七七六六六六六六六六六六六六六五五五五五五五五五五五五五五五五五四四四四四四四四四四四四四四四四四四三
九九八七七七六六六四四四三三二二二一一一○○九九九八八七七七六五四四三三二二一一一一○九八八八七七七七六六六五五五四三三三二○九八八八七七七五五五五四四四三二一一一○○○九九九九八八七七六六五五五五五五三三○○九
七○一六三○五二○九七一五三七五一六二一七六九四三八八六三八七四○七四九二二九五三二二四七六一六四五○五二二一三六三六二五三三八八八三八七二一八六二九五三八五三○九二二九八○六六四四四三三一九一六四三二一六○八二六
九○八六四四四一○一七七九三二二四七一三八七八九三六六六○四七五五二四一六三九八三○八二六五一一三三七○一三三二三一六五四三六三二○八九一一五三三九六○九○三四○五三六八七一六七三一九五三四五三八六

▲平壌の部
かりとるぬとそをほよれれそとをれとたかかかるにこへかれよそるにわそぬたわわかたろるかりをにるりへをよよろれさころちりりれれわるわたかるよにかるわわかるぬわるるなれこを りろをはけそいはぬにれよぬほとにををはを
五五五五五五五四四四四四四四四四四四四四四三三三三三三三三三三二二二二二二二二二二二二二二一一一一一一一一一一一一一一一一一一 九九九九九九九九九九九九九九九九九九
六四四四二二二八七六四三三一一一○○○○九七六四四三○○九九八八七六五三二二一一一一○九八五五四四四二二二一九九九八七六五五四三三三二一○八六七三四二一一一一○ 九九八八七六五五五五四二二二一○○○○○
四八四三三八六六七五九九三二六二○九八四○二六四六三○七六八三九七三○四一四○八四三二二○三五五九五○二三○三五五三八七五二二九三三三○六三八○九六八九八○八二二九三 九二六四八一四三三二○七五一八五五三一○
○七○○二八七三四一三八二四二四三二七四二九三一六四六九九三○四○九六九二七七九八六六二五四二二○八八八八六五五九九二二五八八九五一四○八○七三六四八六九三九二 五二六四二二五八一四○八○七三六一三四三

▲釜山の部
いいちいとちぬにににいりとほいりにいぬほにににほにとににりほにねと にをほぬるとわよたにりそこみにちとにみりにちわわをわとかにととよかわこちるへへれをにろよかかちれわれかによわるにをかぬほいろるるかるかを
三三三二一一一○○○九九九九八八八七七七六六六四四四四四三三三一一 九九九九九九九九九九九九九八八八八八八八八八八八八八八八八八七七七七七七七七七七七六六六六六六六六六六六六六五五五五五五五五五
五四二八九八六七七一五二二○八七一六三○八六六八二一一一八八一○八三二 九九九九七七七五五三二二九九九八八七六五四四四三三二二一一○○八八七四三三三二二一○○○九八八八七六六五四四二二一○九九八八七七七七六六
六八二九三四七九六七一九九一○三七○三八五○三○九七三六二八一一六一六 六六五三七七六二三○七七四四四三二一八九一九七一八六五四二二三九○一四九四六六六九九九二二二二二七二二八二八七五三九一六四一三六五
七三五○二一四九六七○○三二八八三○三六八二八八三六二八一○七二八四 七三五○二一四九六七八五四三四四一八三三四八三六八八六五二二二一三六○九一三六二六二三六二三六六四○五七四○四一

りりぬいとほねちいにさいさいりちほにさちいちほいちいちちぬちほほりぬちにさいさぬりちちぬいにちちほにちちほぬにぬさちさとほりにいいにさほちほいほほりさちいににちぬさぬほりほにりいいにににほいぬちぬりさぬさいにに
六六六六六六六六六六六六六六六六六五五五五五五五五五五五五五五五五五五五五五五四四四四四四四四四四四四四四四四三三三三三三三三三三三三三三二二二二二二二二二一一一一一一一一一一
六六五五四四四三三三三二一一一○○○九九九八八七七七七六六五五四四四三二二一一一九九八六六六五四四二二一一○○九九九八七七七五五四四四四四二二一一九九八七七六四四四四三三三二二二二○九九八八六五五五五五五五五四四三
六四四一九四一七五一一六五二一七六四六六○六一九七七二九一四二九七七八六二七七二二○三二三八九八六八六四七六五四九二八九八六三二○六八四○九二四七九三二二七六○四八七四八五○八○九二八九八八○八六四五九八八九八四四三三八一九
○○九二七四四○四七六三三二一二三四五二一○四一五八七三八七五九七六三五五四六○三二三八九八六八六四七六五五四七六六四○八○三七三一三二七八五二七八六六四四二一七八五二三九七六九八八○四一二七四六六五七九五八○四一二六

▲元山の部
いはろいほろろにほいにほいにほはほはいろはにににはにいはにはにいいいにろはほほにい ほちほりちりにぬとにいいぬほぬりりりにぬほいいぬほりぬほいりぬさいいりちぬさにりぬさささぬりさにりほにぬぬかりちにぬ
八八八八八八七七七七七六六六六五五五五五五四四四四四三三三二二二二二二二二一一一一一 九九九九九九九九九九九九九九九九八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八八七七七七七七七七七七七七七七七七七七六六六六六
六五四三三○九六五○七三一一九九七七七九七四三一五三七六五三二一一一○八四○五四三二二 九八八七六六六四四四三二二一一一九九九九八八八八七六六四三二二一一一一○○○九八八七五五五四四三三三二二二二二二○○七七七七六
四一三九五六九七○九二九二一六二九八二一三六二九六四七二六八五○三六八七二八○○二 三一一○五七七五五四一九七三七六○五二一○八六一○九七六八二五三九八四一八五三五九○○七三三七三九一一八四三六二六六五四七
九五三六○二四三九六三八三八五○八九三七九一四九七五二三二六四○九二五九○二六三○ 九二六九七二○三四八○一九八九八六六四一一一三三四一一八八二五五四九○四一○一七九○三○二六○○七三七四八三三六九九五六八八

▲大田の部
ろにとさへはとところにへにいさいさいははにとにほいにへいろほほいへはといはろにへにへいいににころにははとほいいといろはにろにほほほろはいとととはにははほにへはへはほほはにほへほほほにははほ にろろろにいはに
九九八八八八八八八八八八八七七七七七七七七七七七七七六六六六六六六六六六六六六六五五五五五五四四四四四四四三三三三三三三三三三三三二二二二二二二一一一一一一一一一一一一一一 九九九九九九九八
一一八五五五五四三三三三一○九七五五四四三三二二一○九九八八七七三三二二二一○九七二二二○八八六六六二○九八六六六○○八六五五四三三二二二二一九八八七六六五四三三一一○○○○九八六六五四二 八八六五三二二九
六六八七五四二三九九八七○八○九二八一○九○九五一七三二一三○九六九七九四○七六一○四八九九七六九四八九八三三二二四三九一一七六八四七六四一九四三九六三七七五○三三○六三一二一七八 七四五○一七五四
五三一五五八六八三○○八三三三一○六八○八八三七五四八九五七四九三○二一○九四○三二三一二八二四二八九八九六四二三一○一一八七二四四四五六七一五○五九九八三八一八八二一○ 四四三四五二三二

▲五等以下抽籤場

はにへ
九九九
五三三
三六○
三一二

ろはに
九九九
九七七
六四二
八五九

所	氏名
京城	廣江商會營業部
仁川	玉植商店
開城	洪鍾遠
海州	金基錫
南川	李懇良
江華	金潤宅
延安	朴世鎬
紋山	宋喜洙
連川	朴稷店
鐵原	朴稷店
平康	朴承稷支店
水原	高承支店
天安	天承支店
鳥致院	鏡瀨盛商店
商浪浦	朴和
平澤	石味聖商店
新幕	山殿
沙里院	久川商店
載寧	石本商店
安岳	武田商店
黃州	中澤商店
兼二浦	山本商店
鎭南浦	大井商店
平壤	廣田商店
石岩里	時田商店
安州	久田商店
鎭川	文岡商店
成川	中田商店
北鎭	末西商店
定州	林寛商化
標川	韓商店
宜川	廣岡商店
寧邊	廣鏡店
新義州	渡炳洪
納清亭	金田支店
大田	辻田支店
沃川	丁邊支店
忠州	大基店
金泉	小屋支泰
大邱	内子商店
論山	紀石商店
江景	梶塚商店
裡里	横山商店
群山	杉本商店
全州	大商店
金堤	原道商店
金邑	城商店
井州	山木商店
光浦	伴田商店
木山	廣所商店
釜山	小川商店
元山	田江商會支店
公州	渡林商店
永興	玉中商店
咸興	鹽邊商店
城津	非置商店
清津	井藤商店

右當選者へ御送付可致候間御便宜の方へ御申出被下度候附記當籤券は抽籤日より二ヶ月間有効に付二月末日限り御持參相成度尚ほ現品御引換の際は籤券御持參の上は廣江商會其他各取次店にて御引替可申候

廣江商會